

2024年度  
看護学部 看護学科  
シラバス

# ■目次

1年生 学修成果(到達目標)、カリキュラムマップ	4
1年生 カリキュラムツリー	6
1年生 年間予定表	8
1年生 シラバス	11

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	11	栄養学	29
英語 I	12	病理学	30
英語 II	13	病態治療学 I	31
情報処理 I	14	病態治療学 II	32
情報処理 II	15	病態治療学 III	33
生命倫理学	16	看護薬理学	34
心理学	17	看護学概論	35
宗教と民族	18	看護倫理	36
人間関係論	19	看護過程論	37
社会学	20	基礎看護技術 I	38
社会保障論	21	基礎看護技術 II	39
物理学	22	基礎看護技術 III	41
生物学	23	基礎看護技術 IV	42
人体構造と機能 I	24	成人看護学概論	44
人体構造と機能 II	25	スタートアップセミナー	45
人体構造と機能 III	26	基礎看護学実習 I	46
生化学	27	基礎看護学実習 II	47
微生物学	28		

ナンバリング	50
教員一覧	52
実務経験を有する教員一覧	53
オフィスアワー・成績評価	54

# 看護学部 看護学科

## 1 年生

- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス

## 看護学部看護学科 カリキュラムマップ

### 学修成果（到達目標）

#### 1 【人間基盤力】

人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力

#### 2 【連携協働力】

多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力

#### 3 【専門実践力】

科学的根拠・理論的知識を身につけ、安全かつ計画的に看護を実践する力

#### 4 【学術探究力】

学修課題や目標に主体的に取り組み、看護学を学術的に探究できる力

#### 5 【課題解決力】

地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる力

学修成果とは、学生がその授業科目で身に付けるべき資質・能力（何ができるようになるのか）を表すものです。

●は、各授業科目が、学修成果の1～5のどれを身に付けることを目指すものかを表しています。

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次												
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年						
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養科目	日本語表現法	1		15	●						○											
	英語 I	1		8	●						○											
	英語 II	1		15	●						○											
	英語 III		1	15	●			●													○	
	情報処理 I	1		15	●						○											
	情報処理 II	1		15	●						○											
	ICT活用技術		1	15	●			●				○										
	哲学	1		8	●				●												○	
	生命倫理学	1		8	●	●			●		○											
	心理学	1		8	●	●			●		○											
	教育心理学		1	8	●				●													○
	宗教と民族		1	8	●						○											
	人間関係論		1	8	●	●			●		○											
	法学入門	1		8	●																	○
	日本国憲法		2	15	●																	
	経済と政策	1		8	●																	○
	教育学概論		1	8	●				●													○
	社会学		1	8	●				●		○											
	社会保障論	1		8	●				●		○											
	物理学	1		8	●		●	●			○											
	生物学	1		8	●		●	●			○											
自然環境と災害	1		8	●				●													○	
統計学入門	1		8	●				●													○	
健康スポーツ I		1	8	●																	○	
健康スポーツ II		1	15	●																	○	
専門基礎科目	人体構造と機能 I	2		15				●			○											
	人体構造と機能 II	2		15				●			○											
	人体構造と機能 III	2		15				●			○											
	生化学	1		8				●			○											
	微生物学	1		8				●			○											
	栄養学	1		8				●			○											
	病理学	1		8				●			○											
	病態治療学 I	2		15				●			○											
	病態治療学 II	2		15				●			○											
	病態治療学 III	2		15				●			○											
	病態治療学 IV	2		15				●			○											
	看護薬理学	2		15				●			○											
	公衆衛生学	1		8		●	●		●			○										
	疫学 *		1	8		●	●		●			○										
	保健情報論 *		2	15		●	●		●													○
保健医療福祉行政論	2		15		●	●		●													○	
チームアプローチ入門	1		15		●	●		●													○	

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次								
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年		
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎看護学	看護学概論	2		15	●		●				○							
	看護倫理	1		8	●		●				○							
	看護過程論	2		15			●	●	●		○							
	基礎看護技術Ⅰ	1		8			●				○							
	基礎看護技術Ⅱ	2		30			●				○							
	基礎看護技術Ⅲ	1		15			●		●		○							
	基礎看護技術Ⅳ	2		30			●		●		○							
地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論Ⅰ	1		8	●		●				○							
	地域・在宅看護学概論Ⅱ	1		8	●	●					○							
	地域・在宅看護学援助論	2		15		●	●		●						○			
	地域・在宅看護学援助方法	1		15			●		●							○		
	地域包括ケア論	1		8		●	●		●							○		
成人看護学	成人看護学概論	1		8	●		●				○							
	成人看護学援助論	2		15			●		●			○						
	成人看護学援助方法	2		30			●		●			○						
老年看護学	老年看護学概論	1		8	●		●				○							
	老年看護学援助論	2		15			●		●			○						
	老年看護学援助方法	1		15			●		●				○					
小児看護学	小児看護学概論	1		8	●		●				○							
	小児看護学援助論	2		15			●		●			○						
	小児看護学援助方法	1		15			●		●				○					
母性看護学	母性看護学概論	1		8	●		●				○							
	母性看護学援助論	2		15			●		●			○						
	母性看護学援助方法	1		15			●		●				○					
精神看護学	精神看護学概論	1		8	●		●				○							
	精神看護学援助論	2		15			●		●			○						
	精神看護学援助方法	1		15			●		●				○					
看護の基盤と応用	看護過程展開方法	1		15			●	●	●			○						
	家族支援論	1		8	●		●					○						
	救急救命学	2		15			●		●							○		
	クリティカルケア看護学	1		8	●		●		●								○	
	周術期看護論	2		15	●		●		●			○						
	リハビリテーション論	2		15		●	●		●									○
	緩和ケア論	1		8	●		●		●			○						
看護の統合と実践	医療安全管理論	1		8	●		●		●									○
	災害看護論	2		15			●		●							○		
	看護管理論	1		8		●	●		●									○
	国際看護論	1		8			●		●									○
	スタートアップセミナー	1		15	●	●		●			○							
	キャリアデザインセミナー	1		8					●						○			
	看護研究Ⅰ	1		8	●		●	●	●							○		
	看護研究Ⅱ	1		15			●	●	●									○
	看護学総合講義	2		15			●	●	●									○
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1		40h	●	●	●	●	●		○							
	基礎看護学実習Ⅱ	2		80h	●	●	●	●	●		○							
	地域・在宅看護学実習Ⅰ	1		40h	●	●	●	●	●			○						
	地域・在宅看護学実習Ⅱ	1		40h	●	●	●	●	●									○
	領域横断看護実習	3		120h	●	●	●	●	●			○						
	成人看護学実習	3		120h	●	●	●	●	●							○		
	老年看護学実習	3		120h	●	●	●	●	●							○		
	小児看護学実習	2		80h	●	●	●	●	●							○		
	母性看護学実習	2		80h	●	●	●	●	●							○		
	精神看護学実習	2		80h	●	●	●	●	●							○		
	統合実習	3		120h	●	●	●	●	●									○
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論 ※看護師課程選択可 *	1		8	●		●		●						○			
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ *	2		15			●	●	●						○			
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ *	2		15			●	●	●							○		
	公衆衛生看護学援助方法 *	1		15			●		●									○
	公衆衛生看護管理論 *	2		15			●		●							○		
	公衆衛生看護学実習Ⅰ *	1		40h	●	●	●	●	●							○		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ *	3		120h	●	●	●	●	●									○

卒業要件単位数 124単位以上 (保健師課程 135単位以上)

\*の科目は保健師課程を選択した場合、必修科目として履修

# 仙台青葉学院大学 看護学部 看護学科 カリキュラム・ツリー

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教 養 科 目	言語・情報系	日本語表現法 英語Ⅰ 情報処理Ⅰ	英語Ⅱ 情報処理Ⅱ	ICT活用技術(選)			英語Ⅲ(選)	
	人文科学系	生命倫理学 宗教と民族(選) 人間関係論(選)	心理学		哲学 教育心理学(選)			
	社会科学系	社会学(選)	社会保障論		法学入門 経済と政策	教育学概論(選)		日本国憲法(選)
	自然科学系	物理学 生物学		統計学入門 健康スポーツⅠ(選)	自然環境と災害 健康スポーツⅡ(選)			
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ 人体構造と機能Ⅱ 生化学 微生物学	人体構造と機能Ⅲ 栄養学					
	疾病の成り立ちと回復の促進		病理学 病態治療学Ⅰ 病態治療学Ⅱ 病態治療学Ⅲ 看護薬理学	病態治療学Ⅳ				
	健康支援と社会保障制度			公衆衛生学 疫学(選)	保健情報論(選) 保健医療福祉行政論 チームアプローチ入門			



## 2024年度 看護学科1年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土				
4月		1	2	3	入学式	4	オリエンテーション	5	オリエンテーション	6		
	7	8	1	9	1	10	1	11	1	12	1	13
	14	15	2	16	2	17	2	18	2	19	2	20
	21	22	3	23	3	24	3	25	3	26	3	27
	28	29		30	4	1	4	2	4	3		4
5月	5	6	7	5	8	5	9	5	10	4	11	
	12	13	4	14	6	15	6	16	6	17	5	18
	19	20	5	21	7	22	7	23	7	24	6	25
	26	27	6	28	8	29	8	30	8	31	7	1
6月	2	3	7	4	9	5	9	6	9	7	8	8
	9	10	8	11	10	12	10	13	10	14	9	15
	16	17	9	18	11	19	11	20	11	21	10	22
	23	24	10	25	12	26	12	27	12	28	11	29
	30	1	11	2	13	3	13	4	13	5	12	6
7月	7	8	基礎看護学実習Ⅰ	9	基礎看護学実習Ⅰ	10	基礎看護学実習Ⅰ	11	基礎看護学実習Ⅰ	12	基礎看護学実習Ⅰ	13
	14	15		16	14	17	14	18	14	19	13	20
	21	22	12	23	15	24	15	25	15	26	14	27
	28	29	定期試験	30	定期試験	31	定期試験	1	定期試験	2	定期試験	3
8月	4	5		6		7		8		9		10
	11	12		13		14		15		16		17
	18	19	不合格者発表	20		21		22		23		24
	25	26	再試験	27	再試験	28	再試験	29	再試験	30		31
9月	1	2		3		4		5		6		7
	8	9		10		11		12		13		14
	15	16		17		18		19		20		21
	22	23		24	オリエンテーション	25	1	26	1	27	1	28
	29	30	1									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2024年度 看護学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土					
10月				1	1	2	2	3	2	4	2	5	
	6		7	2	8	2	9	3	10	3	11	3	12
	13		14		15	3	16	4	17	4	18	4	19 (保護者会)
	20		21	3	22	4	23	5	24	5	25	5 せいよう祭準備	26 せいよう祭
	27		28	4	29	5	30	6	31	6	1	6	2
11月	3		4		5	6	6	7	7	7	8	7	9
	10		11	5	12	7	13	8	14	8	15	8	16
	17		18	6	19	8	20	9	21	9	22	9	23
	24		25	7	26	9	27	10	28	10	29	10	30
12月	1		2	8	3	10	4	11	5	11	6	11	7
	8		9	9	10	11	11	12	12	12	13	12	14
	15		16	10	17	12	18	13	19	13	20	13	21
	22		23	11	24	13	25	14	26	14	27	14	28
	29		30		31		1		2		3		4
1月	5		6	12	7	14	8	15	9	15	10	15	11
	12		13		14	15	15	月13	16	月14	17	月15	18
	19		20	定期試験	21	定期試験	22	定期試験	23	定期試験	24	定期試験	25
	26		27		28		29		30		31		1
2月	2		3	基礎看護学実習Ⅱ	4	基礎看護学実習Ⅱ	5	基礎看護学実習Ⅱ	6	基礎看護学実習Ⅱ	7	基礎看護学実習Ⅱ	8
	9		10	基礎看護学実習Ⅱ	11		12	基礎看護学実習Ⅱ	13	基礎看護学実習Ⅱ	14	基礎看護学実習Ⅱ	15
	16		17	基礎看護学実習Ⅱ 不合格者発表	18		19		20		21		22
	23		24		25	再試験	26	再試験	27	再試験	28		1
3月	2		3		4		5		6		7		8
	9		10		11		12		13		14		15
	16		17		18	(卒業式)	19		20		21		22
	23		24		25		26		27		28		29
	30		31										

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa01				
	●									
科目名	日本語表現法				単位認定者	後藤 和也		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	医療従事者は対人援助を行う仕事であり、コミュニケーション能力が求められる。書き言葉と話し言葉を中心に日本語運用の基本を学び、自らを表現し、相手に正しく伝える言語表現の基礎能力を養う。また、大学生活の基礎となるレポート・小論文の作成、学術活動で活かされる読解、文章要約、推敲を実践形式で学修することで、日本語表現の実践力を身につける。									
到達目標	他者の話を聴く・他者に話をするなど、言語的なコミュニケーションの基本を実践できる。プレゼンテーションの基本を理解し、他者に対して自分の考えを言葉で表現することができる。文書作成の基本を理解し、レポートを作成できる。									
学修者への期待等	事前にテキストを熟読すること。また、授業後にテキストを復習すること。授業内のグループワーク等には積極的な参加を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンスと日本語表現法の導入				事前にシラバスを熟読すること					
2	他者との言語的コミュニケーションの基礎				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
3	「話す」コミュニケーション（適切な敬語表現）				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
4	「聴く」コミュニケーション・言語的コミュニケーションの実技（授業内課題1）				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
5	レポート作成の基本（レポートとは・引用の方法）				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
6	レポート作成の基本（参考文献リスト・レポートの種類）				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
7	レポート作成の基礎能力（レポート作成のための発想法・読解の基礎）				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
8	レポート作成の基礎能力（他者の主張をつかむ・論理的な表現を知る）				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
9	レポート作成の実践（授業内課題2）				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
10	自己紹介とコミュニケーション				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
11	プレゼンテーションの基本（コミュニケーションスキル・非言語的コミュニケーション）				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
12	プレゼンテーションの基本（プレゼンテーションの構造・主張の裏付けかた・レジユメの書き方）				資料集の該当ページを予習・復習すること。該当箇所は前回授業時に指示する（概ね30分）					
13	プレゼンテーション実習（授業内課題3）前半グループ				クラスメイトのプレゼンテーションの良いところや改善点をまとめ、自身のプレゼンテーションの改善を図ること（概ね30分）					
14	プレゼンテーション実習（授業内課題3）後半グループ				クラスメイトのプレゼンテーションの良いところや改善点をまとめ、自身のプレゼンテーションの改善を図ること（概ね30分）					
15	授業全体のまとめ				資料集全体を概観し、授業全体の復習をすること（概ね30分）					
教科書	指定なし									
参考文献										
備考	授業内課題は言語的コミュニケーション実技30%、小レポート30%、プレゼンテーション実習40%で評価し、適宜授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
	●				

<b>科目ナンバリング</b>
NSLa02

科目名	英語 I				単位 認定者	相田 明子		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	30 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	<p>グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。</p> <p>英語 I では、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。</p>									
到達目標	<p>1. 医療の現場で使われる基本的な英語表現について理解することができる。</p> <p>2. 英語の基礎力を身につけ、適切なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。</p>									
学修者への期待等	医療英語を学びながら、英語基礎力の復習をしていきます。リスニング練習、ペアワーク、授業内の発表、準備学修を含め、積極的に学ぶ姿勢が求められます。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業のIntroduction、Unit 1 受診の予約、単語 (Body)					本シラバスを読んでおく				
2	Unit 2 受診、Registration FormとMedical Questionnaire、単語テスト(1)Body Parts、単語(症状)					単語テストの準備、該当箇所の予習をする (概ね30分)				
3	Unit 3 ①問診 (現在完了形)、単語テスト(2)症状、単語 (Department)					単語テストの準備、該当箇所の予習をする (概ね30分)				
4	Unit 3 ②診察 (無生物主語) 単語テスト(3) Department					単語テストの準備、該当箇所の予習をする (概ね30分)				
5	Unit 4 薬の服用(There is/are～)、単語(薬)、グループワーク					該当箇所の予習、宿題 (薬の単語) をする (概ね30分)				
6	Unit 8 術前・術後、単語テスト(4)薬					単語テストの準備、該当箇所の予習をする (概ね30分)				
7	Unit 9 待合室での会話 (体調や症状を説明する表現)					該当箇所の予習、宿題をする (概ね30分)				
8	Unit 10 清拭 (仮定法過去)、既習範囲のふりかえり					該当箇所の予習、宿題をする (概ね30分)				
教科書	『Introduction to Medical English (医療英語入門)』 稲富百合子他著、松柏社									
参考文献	授業内で指示する									
備考	講義内容は進度に応じて変更する場合がある。 授業内課題は小テスト等で評価し、フィードバックは返却の際に行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa03				
●										
科目名	英語Ⅱ				単位 認定者	ジョーンズ ドミニク		評価の 方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数			
							授業回数	15 回		
授業の概要	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。英語Ⅱでは、英語Ⅰで学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻りに用いられる英語の基本表現についても学修する。									
到達目標	基礎的な英語のListening, Reading, Speaking, Writing を流暢に行うことができる学修スキルを身に付けることが出来る。英語のコミュニケーションを通して自分のことを知り、教員やクラスメートと英語でコミュニケーション出来るようになる。									
学修者への期待等	英語コミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を必ず持参すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	Unit 1を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。First Visit 初診 & 問診表 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.9-12まで予習：概ね30分。				
2	Unit 2を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。At the Examination Room 診察室での基本会話 & ノロウイルス グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.13-16まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
3	Unit 3を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Flu Symptoms インフルエンザの症状 & タミフル グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.17-20まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
4	Unit 4を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Pain Problems 痛みへの対処 & BSE (狂牛病) グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.21-24まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
5	Unit 5を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Stomachache 胃痛 & 摂食障害 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.25-28まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
6	Unit 6を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Abdominal Pain 腹痛 & ホルモン攪乱物質 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.29-32まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
7	Review 1-6					復習：概ね40分。				
8	Unit 7を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Urinalysis 尿検査 & 市販薬 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.33-36まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
9	Unit 8を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Cholesterol コレステロール & メタボリック症候群 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.37-40まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
10	Unit 9を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Anemia 貧血 & バランスのとれた食事 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.41-44まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
11	Unit10を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Injury 怪我 & ウォーキングの効能 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.45-48まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
12	Unit11を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Operation Period 手術の準備 & 入院手順 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.49-52まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
13	Unit12を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Alcohol Poisoning アルコール中毒 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.53-56まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
14	Unit13を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Ultrasound Examination 超音波検査 グループワーク、ディスカッション					教科書 pp.57-61まで予習：概ね30分。 復習：概ね20分。				
15	Review 7-13					復習：概ね40分。				
教科書	『Medical English Clinic』 Toshiaki Nishihara他著、Cengage Learning									
参考文献	各種英和辞典									
備考	本科目はアクティブ・ラーニングを取り入れた学習法とする。シラバスの内容は授業の進行状況によって変更する場合がある。授業内課題は提出物35%、小テスト35%で評価し、返却時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa05				
	●									
科目名	情報処理 I				単位認定者	杉崎 新一		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	<p>情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。</p> <p>情報処理 I では、情報リテラシーを中心に、情報社会で適切な判断をするために必要な情報社会・情報科学に関する基礎知識を修得する。また、大学生活で必要なレポートの作成やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、効果的な資料作成の技術を身につける。</p>									
到達目標	<p>パソコンの基本操作を修得し、業務でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用できることを目標とする。</p> <p>◆Word:書式設定や印刷設定を利用した基本的な文書・表・図形・写真などを含む文書が作成できる。</p> <p>◆Excel:書式設定をして表を整えることができ、適切な計算式や関数、グラフを作成できる。</p> <p>◆PowerPoint:プレゼンテーションを理解し、訴求力あるスライド作成とスライドショー実施ができる。</p>									
学修者への期待等	<p>パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作ができるようにすること。</p> <p>操作ができる者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回をするので質問して確認すること。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	基礎知識:PCの操作・Windowsの基本操作				<p>【事前】</p> <p>マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。(30分程度)</p> <p>【事後】</p> <p>Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。</p> <p>これまでの経験によってパソコンのスキル(技能)は、各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業中に作成したものを繰り返し操作して復習すること。(各自のスキルにより30分～1時間程度)</p>					
2	情報保護:モラルとセキュリティに関する知識 Word:文書の書式設定・印刷設定									
3	Word:入力方法・文書入力・ページ設定									
4	Word:書式設定									
5	Word:図・表を取り入れた文書の作成									
6	Word:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)									
7	Excel:入力と編集方法・数式や関数・書式設定・表示形式									
8	Excel:相対参照と絶対参照・表の編集・印刷設定									
9	Excel:グラフ作成									
10	Excel:基本的な関数(MAX・MIN・COUNT・COUNTAなど)									
11	Excel:基本的な関数(IF・AND・ORなど)・表示形式・日付関連の関数									
12	Excel:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)									
13	PowerPoint:スライドの作成・オブジェクトの挿入									
14	PowerPoint:アニメーションの設定・スライドショーの実施									
15	PowerPoint:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)									
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』杉本くみ子、大澤栄子著、実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	<p>すべての授業回で実技を行うため、各自のパソコンを持参して授業に臨むこと。</p> <p>授業内課題は授業時に指示する提出物で評価し、適宜フィードバックする。</p> <p>課題は次回講義の際に総じて解説を行うこともある。</p> <p>授業内容や順序は、クラス全体の操作の進捗、使用教室により調整する場合がある。</p> <p>当科目は情報処理室で実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。</p>									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

					科目ナンバリング		
1	2	3	4	5	NSLa06		
人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力			
●							
科目名	情報処理Ⅱ				単位 認定者	氏家 留美子	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位
							授業時間数
				授業形態	演習	授業回数	
授業の概要	<p>情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。</p> <p>情報処理Ⅱでは、情報処理Ⅰで学んだ内容を基に、大学生活や卒業後も学び続けるために必要となるデータの収集や処理を正確に行う能力を身につける。さらに、グループワーク等を通じて情報収集、分析、発表、評価を行うことにより、プレゼンテーション技術を高めていく。</p>						
到達目標	<p>Excelを用いて、データベースの構造を深く理解し、関数やピボットテーブルを使い蓄積されたデータの集計と分析が行えるようになる。用途に合わせて適切なグラフを選択し、データを効果的に視覚的に表現できる能力を身につける。</p> <p>PowerPointを用いて、箇条書きでの表現を通じて言葉を簡潔にまとめ、情報的確に伝える技術を身につける。図解表現を活用し、聴衆に対して情報を魅力的かつ理解しやすく伝える能力を養う。</p>						
学修者への期待等	<p>ExcelとPowerPointの知識を積極的に吸収し、情報の高度な活用能力を修得することを期待する。データの分析と表現において独自の洞察を進展させ、これらスキルを将来的に実践的な場面で応用できるよう自己成長に努めていただきたい。</p> <p>授業は情報処理室のパソコンを使用する。教材データや各自の作成ファイルを保存するために、USBメモリを持参すること。なお、授業1回目からはExcelの教科書を持参すること。プレゼンテーションの教科書は授業後半の回から使用するため、1回目の授業から持参する必要はない。</p>						
回	授業計画				準備学修		
1	Excel：数値を視覚化する（グラフ・スパークライン）				<p>【予習】</p> <p>授業では情報処理Ⅰで学んだ内容を土台として、それを応用した内容に焦点を当てる。Excel基礎の操作に不安を感じる場合は、情報処理Ⅰでの内容も振り返り、授業へ臨むこと。</p> <p>【復習】</p> <p>授業で学んだ操作は、次回まで確実に操作できるように練習すること。</p> <p>授業内での作成が完了できない部分は、次回の授業までに操作して完成させておくこと。</p> <p>（予習及び復習時間は、各自のスキルにより1～2時間程度。）</p>		
2	Excel：ルールに基づいた書式や規則を設定する（条件付き書式・入力規則）						
3	Excel：関数を活用する（統計・検索・日付関連の関数）						
4	Excel：総合演習①（グラフ・書式設定・関数などを活用する）						
5	Excel：データベースの基本と活用（並べ替え・抽出・集計・テーブル）						
6	Excel：データベースの集計と分析（ピボットテーブル）						
7	Excel：総合演習②（集計・ピボットテーブルを活用する）						
8	Excel：データの分析方法を考える（グループワーク）						
9	PowerPoint：伝える情報を整理する（ストーリー構成・箇条書きでの表現・書式の工夫）				<p>【復習】</p> <p>授業で習得した技術や原則をもとに、自分のプレゼンテーション資料に適用し活用すること。自分のアイデアを表現できるよう実践に移すこと。（復習時間は1時間程度）</p>		
10	PowerPoint：データをチャート化する（表の効果的な使い方・データに合う適切なグラフの利用・画像の飾り方）						
11	PowerPoint：アイデアを形にする（図解表現・色の使い方）						
12	PowerPoint：重要点を強調し注目させる（アニメーションの効果的な使い方）						
13	PowerPoint：発表の準備（配付資料の作り方・スライドショーの実行・話し方）						
14	PowerPoint：発表・アイデアの提案（グループワーク）						
15	PowerPoint：振り返り・評価（グループワーク）						
教科書	『よくわかる Microsoft Excel 2021 応用 Office 2021/Microsoft 365対応』富士通ラーニングメディア著、FOM出版 『よくわかる 自信がつくプレゼンテーション』富士通ラーニングメディア著、FOM出版						
参考文献	進行に応じてプリントを配付することもある。						
備考	<p>当科目は2クラスに分けて実施する。授業内容は、クラス全体の操作の進捗により前後する場合もある。授業内課題は「小テスト：40%」、「提出物：30%」で評価し、適宜フィードバックする。</p> <p>「小テスト」は、事前に告知した上で、授業で操作した内容を実技や筆記で問う。</p> <p>「提出物」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。</p> <p>授業は情報処理室で実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。</p>						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb02				
	●	●		●						
科目名	生命倫理学				単位認定者	飯沼 一字		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	医療は生物、心理、社会的な包括的アプローチが求められる。医学の進歩発展過程や学際的に問われる倫理（生殖技術・移植医療・遺伝子技術）、医療現場で問われている倫理的問題（人工妊娠中絶・安楽死・尊厳死）等を具体的な課題を通して学ぶ。医療従事者として必要とされる、相手を尊重し敬意を持って接する姿勢や、人間の尊厳についての考えを深め、倫理的態度を身につけることを目指す。									
到達目標	生命とは何か、生命科学とは何か、倫理とは何かを考えに入れながら、医療従事者として業務に携わるに当たっての中心になる心構えを培う。著しい医学・科学の発展と倫理との関係を学ぶ。まだ解決されていない課題が多いが、それに対する各人の考えをまとめていくことを努力する。									
学修者への期待等	生命に対して、人間としてのあり方を深く考えながら、受講に臨むこと。自分ならどうするかなど、事柄を他人事ではなく、自身に即した事柄としてとらえていく態度を望む。									
回	授業計画				準備学修					
1	生命倫理学総論				生命倫理とは、世の中の出来事での生命倫理の関わりであることを理解する。(30分)					
2	医学・医療の歴史、近代科学の発展と医療倫理				近代になり特に化学が著しい発展を見せたことを理解し、それに伴って倫理的課題が生じていることを理解する。(30分)					
3	医学関連の出来事（医療事故、医療過誤を含む）				20世紀からの医学関連の出来事と医療倫理について理解する。(30分)					
4	生命科学の革命的発展と倫理				十数年前には考えられなかった医学の発展がある。倫理との兼ね合いについて理解を深める。(30分)					
5	生命倫理の歴史と現代への連携				人権がどう守られるようになったか。その思想的根拠について理解する。(30分)					
6	大災害と医療の関わり				今でもしばしば起きる大災害に際して、医学・医療がどうかかわるかを理解する。(30分)					
7	生命の始まりとつなぎ				生命誕生に係る倫理的考察、生命をいかにつなぐかの理解を深める。(30分)					
8	死の医学				生命の終わりである死について考える。(30分)					
教科書	特になし									
参考文献										
備考	授業内課題については適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb03				
	●	●		●						
科目名	心理学				単位認定者	真覚 健		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	心理学とは、人間の心と行動を学び、科学的に検証する学問である。心理学の基礎知識である「感覚・知覚、学習・記憶、感情、動機・欲求、性格、社会・集団」を学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎的知識を身につける。また、社会に対する心理学の役割、心理学の対象となる日常生活上の問題やこころの健康にも触れて学修する。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。 3：社会に対する心理学の役割について説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	心理学とは（心理学と自然科学）				心を科学的に扱うための工夫、心理学の対象について調べておくこと（30分程度）					
2	感覚・知覚・認知				感覚的順応，恒常性，対比と同化について調べておくこと（30分程度）					
3	学習・記憶				随伴性学習，短期記憶・長期記憶の特徴について調べておくこと（30分程度）					
4	感情				基本的感情，表情について調べておくこと（30分程度）					
5	動機・欲求				内発的動機づけ，適応機制について調べておくこと（30分程度）					
6	性格				類型論と特性論について調べておくこと（30分程度）					
7	社会・集団				集団の種類，集団規範について調べておくこと（30分程度）					
8	心理学の対象となる日常生活上の問題				心理学の近接領域について調べておくこと（30分程度）					
教科書	資料を配布する。									
参考文献	『新心理学ライブラリ1 心理学への招待』梅本堯夫他編、サイエンス社									
備考	毎回小レポートを実施し、次回の授業でフィードバックを行う。 第1回，第8回はグループワークを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb05				
	●									
科目名	宗教と民族				単位認定者	徳田 幸雄		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	国際社会の中で、他者を理解するためには、宗教や民族、思想、歴史、文化への理解が重要である。世界の主要宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教）を取り上げ、思想と歴史に触れることで、世界に対する自己見解を持ちながらも、他者の思想等を尊重できる姿勢を学ぶ。また、地域紛争の背景となる民族問題、紛争により起こる難民問題等を取り上げ、現在起きている国際的な問題と日本の関係についても学び、幅広い視野を持てるよう学修する。									
到達目標	国際化時代に相応しい他者理解の素養を身につけるとともに、自己理解を深める。									
学修者への期待等	日頃から宗教が絡む国際情勢や時事問題に関心を持ち、自身で情報収集するなどして主体的な取り組みをしたうえで授業に臨むことが望ましい。									
回	授業計画				準備学修					
1	イスラエルの宗教				パレスチナ問題について調べる（30分）					
2	ユダヤ教：「遵守する」宗教				モーセについて調べる（30分）					
3	キリスト教：「信じる・愛する」宗教				パウロについて調べる（30分）					
4	イスラーム：「服従する」宗教				ムハンマドについて調べる（30分）					
5	インドの諸宗教：「祭る」宗教				カースト制について調べる（30分）					
6	仏教：「悟る」宗教				ブッダについて調べる（30分）					
7	日本仏教（13宗）				大乘仏教について調べる（30分）					
8	神道：「清める」宗教				日本神話について調べる（30分）					
教科書	使用しない									
参考文献										
備考	授業内課題はチェック・テストで評価し、次回の授業冒頭にてフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLb06				
	●	●		●						
科目名	人間関係論				単位認定者	真覚 健		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
							授業時間数		15 時間	
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	日々の生活において、他者と良好な関係を築くことは重要なことであり、その場面は家庭、学校、職場、地域等と多岐に渡り、他者（対象者）によっても、築くべき人間関係は大きく異なる。他者との良好な関係を築くために必要なことは何か、対人認知のプロセスやメカニズム、対人関係の理論と技法を学修し、コミュニケーション能力の向上を図る。									
到達目標	1：看護業務における人間関係の機能について説明できる。 2：対人認知のプロセスやメカニズムについて説明できる。 3：看護職者として必要なコミュニケーション能力を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 学んだ知識を活かしたコミュニケーションができるよう実践することを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	看護における人間関係				患者と良好な人間関係を形成することの意義について調べておくこと（30分程度）					
2	対人認知①（対人印象の形成）				暗黙のパーソナリティ理論について調べておくこと（30分程度）					
3	対人認知②（対人魅力にかかわる要因）				自己開示について調べておくこと（30分程度）					
4	交流分析の理解				5つの自我状態について調べておくこと（30分程度）					
5	コミュニケーションプロセスとミスコミュニケーション				コミュニケーションプロセスについて調べておくこと（30分程度）					
6	非言語コミュニケーションの理解				非言語コミュニケーションについて調べておくこと（30分程度）					
7	コミュニケーションのスキル①（話を聴くスキル）				傾聴について調べておくこと（30分程度）					
8	コミュニケーションのスキル②（アサーティブ・コミュニケーション）				アサーティブ・コミュニケーションについて調べておくこと（30分程度）					
教科書	資料を配布する。									
参考文献	『ナースのための臨床社会心理学：看護場面の人間関係のすべて』 C. アブラハム他著、北大路書房									
備考	毎回小レポートを実施し、次回の授業でフィードバックを行う。 第6～8回はペア学習を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc05				
	●			●						
科目名	社会学				単位認定者	小野寺 修		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
							授業時間数		15 時間	
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	この科目は、社会学の理念・理論・全体構造といった基礎的な知識を学び、現代において多様化する社会的諸問題について考える。身近な問題として、ジェンダー、子どもの貧困、多様化する家族、難民、多文化、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）等をテーマに、幅広く学び、社会問題について、自ら考える力を養う。									
到達目標	社会とは何か、社会学の考え方を学ぶことで、社会的な視点から検討し、論理的に説明することができる。									
学修者への期待等	みなさんが普段暮らしている社会をじっくり見つめて、これまであたりまえに考えてきたことが果たしてあたりまえなのかを考えてみてください。社会は日々動いています。社会の現象や世の中の流れを注視してください。									
回	授業計画				準備学修					
1	社会とは何か（基礎理論・用語）				【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
2	共生とは何か				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
3	多文化共生（地域社会とエスニシティ）				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
4	マイノリティ（マイノリティとは誰のことか） グループワーク				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
5	ジェンダー（男らしさ・女らしさ）				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
6	家族（多様な家族像）				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
7	社会調査（何を調べるのか）				【事前】講義テーマの下調べ（概ね30分） 【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
8	講義のまとめ				【事後】講義内容の復習（概ね1時間）					
教科書	特に指定しません。必要な教材はこちらで準備します。									
参考文献	『よくわかる社会学』宇都宮京子・西澤晃彦編著、ミネルヴァ書房 『大学生のための社会学入門』篠原清夫・栗田真樹編著、光洋書房 『社会学』奥井智之著、東京大学出版会									
備考	・受講者の理解度および授業の進度によって、内容を変更することがあります。 ・課題に対する講評等は、授業内またはLMSにて、個別もしくは全体にフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLc06				
	●			●						
科目名	社会保障論				単位認定者	青山 美智子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療を取り巻く環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。									
到達目標	社会保障制度の体系と概要を理解し説明できる。 統計データからわが国の社会的背景と医療保障制度の関係性を理解し説明できる。 社会生活の中での社会保障の役割について理解し説明できる。									
学修者への期待等	社会保障関連の統計データ、新聞、ニュースに対して、日頃から関心をもつことが望ましい。 社会変遷との関連性を理解し、社会保障制度を複眼的な考え方で理解することが望ましい。 国家試験対策も併せて行うので積極的な授業参加を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	社会保障の理念、憲法第25条、社会保障制度の構成、わが国の人口構造と人口ピラミッド、少子高齢社会、平均寿命、出生率、一次資料の活用について 本時の単元に関する国試問題傾向				事後学修	本時のレジュメを読み込む。 当該単元の図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
2	【健康と公衆衛生】1.健康とは、2.公衆衛生とは、3.公衆衛生に関係する行政組織、4.世界保健機関(WHO)、本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
3	【医療を取り巻く環境】1.平均寿命と健康寿命、2.生活習慣と健康状況、3.国民の受療状況、4.感染症状況、5.死因状況、6.国民医療費の推移 本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
4	【医療供給体制】1.医療法、2.医療法上の医療機関の分類と役割、3.二重登録制、4.医療従事者と関連法、本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
5	【保健衛生】1.食品衛生、2.環境衛生、3.労働衛生、4.学校保健、5.母子保健、6.地域保健、7.精神保健、本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
6	【社会保障 ①社会保険】1.医療保険制度、2.労働者災害補償保険制度、3.介護保険制度、4.年金保険制度、本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
7	【社会保障 ②社会福祉】1.児童福祉、2.高齢者福祉、3.障害者福祉、4.母子・父子・寡婦福祉等、地域包括ケアシステム 本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
8	【社会保障 ③公的扶助、④保健医療・公衆衛生】1.生活保護法、健康診断、感染症予防対策等、現物給付と現金給付、法定給付と付加給付、社会保障論の到達目標達成状況 本時の単元に関する国試問題傾向				事前学修 事後学修	前回小テストの誤答箇所を再学修する 当該単元の図表やデータを読む (30分) 課題を完成させる (30分)				
教科書	毎時レジュメを配布する。									
参考文献	一次資料を確認しながら進める。文献は必要に応じて授業内で紹介する。									
備考	授業内容や順序は、単元の関連性により調整する場合がある。 国試対策も行い小テストは適宜行う。小テストの解答・解説(フィードバック)はLMSに掲載するので必ず確認すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd01				
	●		●	●						
科目名	物理学				単位認定者	本田 俊夫		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
							授業時間数		15 時間	
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	<p>人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。物理の基礎として力学、温度と熱、音と光、電気と磁力、原子と放射線について学修し、医療に携わる者として、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。</p>									
到達目標	<p>日常生活や体とかかわる身近な物理的事象の基礎原理について理解し、それをわかりやすく説明し、応用することができる。医療にかかわる者として、物理学全般の基礎的な教養と知識を身につける。</p>									
学修者への期待等	<p>教科書に基づいて準備学修で指定された箇所を必ず予習してください。授業では人体、医療に近づけた内容で実施します。よく復習して理解を深めてください。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	「力のつり合い」力のはたらき・つり合い				第1章力のつり合いp. 2～7を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)					
2	「力のつり合い」剛体にはたらく力				授業後に復習し理解を深める。(概ね30分)					
3	運動の表し方と運動の法則				第2章p. 10～13、第3章p. 18～23を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)					
4	熱とエネルギー				第7章熱とエネルギーp. 50～55を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)					
5	波の性質① 音				第10章音p. 78～83を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)					
6	波の性質② 光				第11章音p. 87～89を読んでおくこと。(概ね30分)					
7	電磁気				第12章音p. 94～97を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)					
8	原子と放射線				第15章音p. 118～123を読んでおくこと。(概ね30分～1時間)					
教科書	『基礎と演習 大学生の物理入門』高橋正雄著、共立出版									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLd02				
	●		●	●						
科目名	生物学				単位認定者	石澤 公明		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。生物学の基礎として、生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・環境を学修し、医療に携わる者として、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。									
到達目標	生命の尊厳を深く認識する社会人として生物学の教養を深め、更に専門・臨床科目の理解に必要な生物学の基礎知識を理解する。									
学修者への期待等	事前に配布する講義資料の予習を行なって講義に出席してほしい。質問があれば、講義中に発言するか、講義中に配布する用紙(ミニツペーパー)に記入して下さい。教師との積極的なコミュニケーションを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	生物とは？				配付する資料(生物とは?)の復習(概ね30分)					
2	細胞の構造及び細胞分裂				配布する資料(細胞の構造及び細胞分裂)の復習(概ね30分)					
3	生体膜の構造と機能				配布する資料(生体膜の構造と機能)の復習(概ね30分)					
4	生体のエネルギーと代謝				配布する資料(生体のエネルギーと代謝)の復習(概ね30分)					
5	環境応答と神経伝達				配布する資料(環境応答と神経伝達)の復習(概ね30分)					
6	免疫及び細胞分化				配布する資料(免疫及び細胞分化)の復習(概ね30分)					
7	遺伝				配布する資料(遺伝)の復習(概ね30分)					
8	遺伝情報の発現				配布する資料(遺伝情報の発現)の復習(概ね30分)					
教科書										
参考文献	『サイエンスビュー 生物総合資料』長野敬他監修、実教出版									
備考	授業内課題(レポート)は、最初の講義で課題を提示します。紙媒体(A4レポート用紙一枚)で、期日内に提出して下さい。そのフィードバックは、最後の講義で行います。 上記レポート課題とは別に、毎回講義で課題を出します。その解答及び講義内容についての質問を配布する用紙(ミニツペーパー)に記入し、講義終了時に提出して下さい。その課題解答や質問のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa01			
			●						
科目名	人体構造と機能 I				単位認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能 I では、人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。								
到達目標	1. 人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織の構造と機能が説明できる。 2. 骨格系では骨の名称、筋系では筋の名称や運動について説明できるようになる。								
学修者への期待等	解剖学を学ぶことは自分の体を知ることにつながります。興味をもって取り組んでください。解剖学の基本である、骨と筋の名称を覚えて医学用語が使えるようになります。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	解剖学総論				「解剖学」とは何か考えておく			大和田 宏美	
2	骨模型を組み立ててみよう				今まで習ったことの復習をしておくこと。			大和田 宏美	
3	骨学：頭蓋骨・脊柱 グループワーク				教科書のp98-105を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			大和田 宏美	
4	骨学：上肢 グループワーク				教科書のp106-110を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			大和田 宏美	
5	骨学：骨盤帯・下肢 グループワーク				教科書のp110-115を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			大和田 宏美	
6	骨の働き・骨の組成・骨組織・骨の種類				教科書のp86-96を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			山本 由似	
7	関節の構造と種類・関節の運動と変形・骨の成長と老化				教科書のp116-121を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			山本 由似	
8	骨の形成・骨折の治癒過程・骨の病気				教科書のp86, 87, 96, 97, 104を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			山本 由似	
9	筋の種類・骨格筋の構成・筋の機能				教科書のp122-125を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			山本 由似	
10	筋学：身体の運動方向・顔面の筋				教科書のp119, 133を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			大和田 宏美	
11	筋学：腹部・背部の筋				教科書のp134-135を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			大和田 宏美	
12	筋学：上肢の筋				教科書のp136-138を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			大和田 宏美	
13	筋学：下肢の筋				教科書のp140-141を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			大和田 宏美	
14	筋収縮・末梢神経と筋				教科書のp126-132を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			山本 由似	
15	筋学の総まとめ				教科書のp139, 142を事前に読んでおくこと。(概ね各1時間)			大和田 宏美	
教科書	『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学』林正健二編、メディカ出版 『ナーシング・サブリエイメージできる解剖生理学』ナーシング・サブリエイ編集委員会編、メディカ出版								
参考文献	『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』板井健雄他著、医学書院 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』板井健雄他監訳、医学書院								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa02				
			●							
科目名	人体構造と機能Ⅱ				単位 認定者	田林 暁一		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能Ⅱでは、循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、生殖器の構造と機能など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓の構造、機能、および主症状が説明できる。</li> <li>2. 血管系の構造と機能が説明できる。</li> <li>3. 気道の構造と機能が説明できる。</li> <li>4. 肺の構造、機能、および主症状が説明できる。</li> <li>5. 消化器系の構造、機能、および主症状が説明できる。</li> <li>6. 泌尿器系の構造、機能、および主症状が説明できる。</li> <li>7. 生殖器系の構造と機能が説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	第2回から第15回講義に際し、授業計画の予習、及び講義後1～2日間で復習をしてください。予習、及び復習は反転授業で活用し、理解を深めていきたいと考えているので、予習・復習の習慣をつけてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	医学への関心度（一般的な医学情報に関する質問）					医学一般に関する学修、事前準備は不要				
2	心臓・血管系の構造と機能					第2回講義内容の30分間の予習				
3	循環器総論（胸痛、動悸）					第3回講義内容の30分間の予習、及び第2回講義の30分間の復習				
4	循環器総論（ショック）					第4回講義内容の30分間の予習、及び第3回講義の30分間の復習				
5	循環器総論（救急）					第5回講義内容の30分間の予習、及び第4回講義の30分間の復習				
6	気道・肺の構造と機能					第6回講義内容の30分間の予習、及び第5回講義の30分間の復習				
7	呼吸の仕組み（生理・生物学的動態）					第7回講義内容の30分間の予習、及び第6回講義の30分間の復習				
8	呼吸器総論（咯血、咳、呼吸困難）					第8回講義内容の30分間の予習、及び第7回講義の30分間の復習				
9	呼吸器総論（呼吸不全）					第9回講義内容の30分間の予習、及び第8回講義の30分間の復習				
10	消化器系の構造と機能					第10回講義内容の30分間の予習、及び第9回講義の30分間の復習				
11	消化器総論（悪心・嘔吐、吐血、腹痛）					第11回講義内容の30分間の予習、及び第10回講義の30分間の復習				
12	消化器総論（食欲不振、黄疸、下血、便秘）					第12回講義内容の30分間の予習、及び第11回講義の30分間の復習				
13	泌尿器系の構造と機能					第13回講義内容の30分間の予習、及び第12回講義の30分間の復習				
14	泌尿器総論（血尿、蛋白尿、頻尿）					第14回講義内容の30分間の予習、及び第13回講義の30分間の復習				
15	生殖器系の構造と機能					第15回講義内容の30分間の予習、及び第14回講義の30分間の復習				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①：解剖生理学』林正健二編、MCメディカ出版									
参考文献	『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』坂井建雄他著、医学書院									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。授業内課題は適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa03				
			●							
科目名	人体構造と機能Ⅲ				単位認定者	小野寺 健		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	人間の健康障害をきたす疾患を理解する上では、正常な体の構造とその機能を理解する必要がある。人体構造と機能Ⅲでは、中枢神経系、末梢神経系、感覚器系、内分泌系、血液、免疫系の構造と機能など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経系（大脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄）の構造と機能を理解できる。</li> <li>2. 末梢神経系（脳神経、脊髄神経、体性神経、自律神経）の構造と機能を理解できる。</li> <li>3. 感覚器系（視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、内臓感覚）の構造と機能を理解できる。</li> <li>4. 内分泌器官の構造とホルモン作用を理解できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	分からない単語、漢字の読みは教科書、レジメに記すこと。授業後に必ず授業内容に目を通し、復習すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	神経の構造・機能				解剖学用語、生理学用語が多く出るので、復習を欠かさないこと。（約30分必要）					
2	髄膜、脳室、脳幹									
3	大脳、脳神経、末梢神経									
4	脊髄、神経叢									
5	大脳地図1（前頭葉、運動野と感覚野、ブローカ野）									
6	大脳地図2（頭頂葉、側頭葉、後頭葉、大脳辺縁系）									
7	大脳基底核、白質									
8	脳神経1（Ⅰ（嗅神経）～Ⅵ（外転神経））									
9	脳神経2（Ⅶ（顔面神経）～Ⅻ（舌下神経））									
10	画像診査									
11	皮膚と粘膜									
12	感覚系									
13	内分泌系									
14	血液1（成分と機能）									
15	血液2（血液凝固、血液型）									
教科書	『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学』林正健二編、MCメディカ出版									
参考文献	『からだが見える 人体の構造と機能』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
備考	授業内課題はレポートで評価し、適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa04				
			●							
科目名	生化学				単位認定者	岩間 正典		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生化学とは、生命の現象において、科学的に理解・解明をしようとする学問である。本科目では、生体内でのたんぱく質、アミノ酸、酵素、糖質、脂質、核酸等の性質や働き、代謝等を学ぶ。食事で得る栄養が、体内で消化されてから代謝されていくプロセスを含め、生化学的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な栄養素の分類ができる。</li> <li>2. 酵素の作用について説明できる。</li> <li>3. 糖質・脂質・アミノ酸の代謝が説明できる。</li> <li>4. 核酸について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	「生化学」は人間の身体について理解する上での基礎となる科目です。8回の授業で広範囲の内容を学ぶことになるので、わからないところは自分で確認し、疑問点は積極的に質問して、きちんと理解するようにしてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	生化学とは 身体の構成成分、細胞の構造				第1章「生化学を学ぶための基礎知識」について事前に読んで理解しておくこと。（概ね30分） 「細胞の構造と機能」について復習すること。（概ね30分）					
2	酵素、補酵素、ビタミン				酵素と補酵素、主なビタミン欠乏症について復習すること。（概ね30分）					
3	糖質とは				主な糖質の種類について復習すること。（概ね30分）					
4	糖質の代謝				糖質の代謝について復習すること。（概ね30分）					
5	脂質とは、脂質の代謝				脂質及びその代謝について復習すること。（概ね30分）					
6	タンパク質・アミノ酸とは				タンパク質・アミノ酸について復習すること。（概ね30分）					
7	アミノ酸の代謝、窒素源としてのアミノ酸				アミノ酸代謝について復習すること。（概ね30分）					
8	核酸・遺伝子について				核酸・遺伝子について復習すること。（概ね30分）					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学』畠山鎮次著、医学書院									
参考文献	『わかりやすい生化学 疾病と代謝・栄養の理解のために』石黒伊三雄他著、ヌーヴェルヒロカワ									
備考	授業内課題は小テストで評価し、次回の授業で返却・解説します。 第6回の授業は一部反転授業を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa05				
			●							
科目名	微生物学				単位認定者	岩間 正典		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	微生物学の基本知識を学ぶと共に、多くの病原微生物が宿主・環境とどのように関わり合いながら人に感染症を引き起こすのか、その過程を学修する。病原微生物の種類と特徴、感染に対する生体防御機構、微生物感染のしくみなどについて学ぶ。また、看護職として感染予防の観点からも、正しい知識と合理的な対応、対策を行うための基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主な感染微生物について説明できる。</li> <li>2. 生体防御機構の概要が説明できる。</li> <li>3. 主な感染治療薬、ワクチンについて説明できる。</li> <li>4. 基本的な滅菌・消毒法について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	眼に見えない微生物の重要性を十分に理解してもらいたい。授業回数が少ないので、各自で自主的に理解を深める努力をすることを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	微生物学とは、微生物の分類				原核生物と真核生物の違いについて理解しておくこと。（概ね30分）					
2	細菌、ウイルス、真菌の性質				細菌、ウイルス、真菌の違いについて復習すること。（概ね1時間）					
3	主な細菌感染症				主な病原性のグラム陽性菌、グラム陰性菌について復習すること。（概ね1時間）					
4	主なウイルス感染症				主なDNAウイルス、RNAウイルスについて復習すること。（概ね1時間）					
5	その他の感染症（原虫、蠕虫、プリオン等）				主な病原性真菌、原虫、蠕虫およびプリオン病について復習すること。（概ね30分）					
6	生体防御反応とワクチン				生体防御の仕組みとワクチンについて復習すること。（概ね1時間）					
7	抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬				授業で取り上げた抗菌薬等について復習すること。（概ね1時間）					
8	滅菌・消毒法				滅菌と消毒について復習すること。（概ね30分）					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』 南嶋洋一他著、医学書院									
参考文献										
備考	授業内課題は小テストで評価し、次回の授業で返却・解説します。 第4回の授業は一部反転授業を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFa06				
			●							
科目名	栄養学				単位 認定者	岩間 高泉	正典 佳苗	試験(筆記)	80 %	
対象学部 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
							授業時間数		15 時間	
				授業形態	講義	授業回数			8 回	
授業の概要	栄養素の種類と働き、エネルギー代謝、食品の成分と栄養素など、栄養学の基礎を理解する。その上で、ライフステージに対応した栄養・食生活、患者の栄養状態の評価判定、栄養管理や食事療法など、看護実践に必要な知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素の種類と働き、消化・吸収について説明できる。</li> <li>2. 食事摂取基準、健康な食生活について説明できる。</li> <li>3. 栄養ケア・マネジメントの概要が説明できる。</li> <li>4. ライフステージ別、主な病態における栄養について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	この授業を通じて、栄養学に興味・関心を持ってもらい、看護に必要な栄養学の知識を身につけてください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	栄養とは 看護と栄養 栄養素の種類				教科書の第2章にある「栄養素」について予習しておくこと。(概ね30分)			岩間 正典		
2	栄養素のはたらき 栄養素の消化と吸収				消化器系と消化酵素について予習しておくこと。(概ね30分)			岩間 正典		
3	日本人の食事摂取基準				教科書第5章にある「日本人の食事摂取基準」が示す5つの指標について、事前にその意味を理解しておくこと。(概ね30分) 授業の最初に理解度を確認するテストを行います。			岩間 正典		
4	ライフステージと栄養学(1) 妊娠・授乳期、乳幼児期							高泉 佳苗		
5	ライフステージと栄養学(2) 学童期、思春期、成人期、高齢期				自身の学童期、思春期における食生活を振り返ってくること。(概ね10分)			高泉 佳苗		
6	健康づくりと食生活				「食事バランスガイド」を使用して自分の食事をチェックしてくること。(概ね30分)			高泉 佳苗		
7	臨床栄養(1) 栄養状態の評価方法、栄養管理				教科書の第1章にある「栄養サポートチーム (NST)」と第9章にある「チームで取り組む栄養管理」を予習しておくこと。(概ね30分)			高泉 佳苗		
8	臨床栄養(2) 食事療法				教科書の第9章にある「病院食」を予習しておくこと。(概ね1時間)			高泉 佳苗		
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学』小野章史他著、医学書院									
参考文献										
備考	第3回は一部反転授業とし、テスト後、解説を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb01				
			●							
科目名	病理学				単位認定者	齋木 由利子		試験(筆記)	85 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
							授業回数		8 回	
授業の概要	疾病の要因とその発生機序について、細胞障害と生体障害を中心に学修する。細胞障害では、細胞の萎縮、変性、肥大、壊死とアポトーシス、創傷と治癒等について学ぶ。生体障害では、循環障害、臓器不全、炎症、損傷、免疫異常、アレルギー、内分泌・代謝異常、廃用症候群、老年症候群、遺伝子異常、先天異常、腫瘍、中毒等について学修する。									
到達目標	病気が発生するメカニズムを理解する。									
学修者への期待等	単に教科書の内容を覚えるだけでなく、病気がどのようなメカニズムで発症するのかを考えながら修学し、将来の仕事に活かしてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	病理学とは・細胞の異常、小テスト					【事前】教科書で細胞の構造を確認しておく(30分程度)				
2	循環障害、小テスト					【事前】教科書で心・血管の構造を理解する(30分程度)				
3	感染症、小テスト					【事前】教科書で病原体について理解しておく(30分程度)				
4	免疫と免疫異常、小テスト					【事前】教科書で血球細胞について理解しておく(30分程度)				
5	炎症、小テスト					【事前】教科書で炎症にかかわる細胞について理解しておく(30分程度)				
6	代謝異常・先天異常、小テスト					【事前】教科書でDNAについて理解しておく(30分程度)				
7	腫瘍、老化、小テスト					【事前】教科書で癌の特徴について理解しておく(30分程度)				
8	記述式小テスト、試験について、質問対応					【事前】7回の授業全体の復習(30分程度)				
教科書	『なるほどなっとく病理学plus』小林正伸著、南山堂									
参考文献										
備考	小テストは授業でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb02			
			●						
科目名	病態治療学 I				単位 認定者	小山 周樹		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	
							授業時間数		30 時間
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	病態治療学 I～IVでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、疾患の診断に必要な臨床検査方法と造血機能障害、免疫機能障害の病態と診断・治療を学ぶ。また、廃用症候群予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助方法など、リハビリテーションについても理解を深め、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な臨床検査値の評価と疾病の診断に必要な検査方法について説明できる。</li> <li>2. 放射線診断・治療、手術療法、リハビリテーション、理学療法、作業療法の概要を説明できる。</li> <li>3. 造血機能障害（血液・造血器の疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。</li> <li>4. 免疫機能障害（自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫低下に関連する疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。</li> </ol>								
学修者への期待等	さまざまな領域の知識を学び、今後の看護実践に適用できるよう教科書を読んで予習・復習をしてください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	臨床検査①：検体検査①の実際（臨床検査の基礎、血液学検査、化学検査、免疫血清学検査、尿検査）				臨床検査の基礎と検体検査について、教科書の該当するページを予習してください。（60分程度）			菅原 新吾	
2	臨床検査②：検体検査②と生体検査の実際（臨床検査の基礎、微生物学的検査、病理学的検査、生体機能検査）				臨床検査の基礎と生体検査について、教科書の該当するページを予習してください。（60分程度）			菅原 新吾	
3	放射線医学①：放射線診断（X線撮影、CT、MRI）				講義資料をLMSで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。（30分程度）			小山 周樹	
4	放射線医学②：核医学診断・放射線治療				講義資料をLMSで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。（30分程度）			小山 周樹	
5	手術療法：手術侵襲と生体反応、創傷の治癒過程等				手術療法について、教科書の該当するページを予習・復習してください。（30分程度）			柴田 近	
6	手術療法：麻酔				麻酔について、教科書の該当するページを予習・復習してください。（30分程度）			長屋 慶	
7	血液成分、血液の流動性				第7回講義内容の30分間の予習			渡辺 卓	
8	出血と止血、出血性疾患と造血器腫瘍				第7回講義内容の30分間の予習、および第8回講義の30分間の復習			渡辺 卓	
9	浮腫、発熱と食中毒、外科的感染症				第8回講義内容の30分間の予習、および第9回講義の30分間の復習			渡辺 卓	
10	免疫の仕組みと花粉症、食物アレルギー				第9回講義内容の30分間の予習、および第10回講義の30分間の復習			渡辺 卓	
11	自己免疫疾患、川崎病と老化				第10回講義内容の30分間の予習、および第11回講義の30分間の復習			渡辺 卓	
12	リハビリテーション総論				リハビリテーションについて調べてまとめておいてください。資料は事前にLMSで配信します。（30分程度）			大橋 孝子	
13	リハビリテーション：理学療法				理学療法について調べてまとめておいてください。資料は事前に配信します。（30分程度）			大橋 孝子	
14	リハビリテーション：作業療法				作業療法について調べてまとめておいてください。資料は事前にLMSで配信します。（30分程度）			大橋 孝子	
15	リハビリテーション：言語療法				言語聴覚士の業務内容について、予習すること。（60分程度）			渡邊 弘人	
教科書	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』池上徹他編、医学書院 『系統看護学講座 別巻 臨床検査』奈良信雄他編、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』岩田健太郎他著、医学書院								
参考文献									
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb03	
			●				
科目名	病態治療学Ⅱ				単位認定者	田林 暁一	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位
						授業時間数	30 時間
				授業形態	講義	授業回数	15 回
評価の方法	試験（筆記）		80 %		授業内課題		20 %
授業の概要	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、循環障害、呼吸器障害、感覚器系機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。						
到達目標	循環器疾患、呼吸器疾患、高血圧・低血圧症、大動脈瘤、感覚器系疾患（視覚障害、鼻・咽頭・喉頭障害、耳・聴覚障害、皮膚障害）の病態と診断・治療について理解できる。						
学修者への期待等	各講義後1～2日目、1および2週間後に講義内容を30分間復習してください。循環器・呼吸器疾患、血圧疾患、および大動脈疾患では前・前々回の講義内容について復習小テストを実施します。						
回	授業計画			準備学修		担当	
1	先天性心疾患（単純心奇形）の病態と診断・治療			第1回講義資料の30分間の予習		渡辺 卓	
2	先天性心疾患（複雑心奇形）の病態と診断・治療			第2回講義資料の30分間の予習、第1回講義の30分間の復習		渡辺 卓	
3	心臓弁膜症の病態と診断・治療			第3回講義資料の30分間の予習、第2回講義の30分間の復習		渡辺 卓	
4	虚血性心疾患の病態と診断・治療			第4回講義資料の30分間の予習、第3回講義の30分間の復習		渡辺 卓	
5	不整脈（上室性不整脈）の病態と診断・治療			第5回講義資料の30分間の予習、第4回講義の30分間の復習		渡辺 卓	
6	不整脈（心室性不整脈）の病態と診断・治療			第6回講義資料の30分間の予習、第5回講義の30分間の復習		渡辺 卓	
7	心不全の病態と診断・治療			第7回講義資料の30分間の予習、第6回講義の30分間の復習		渡辺 卓	
8	高血圧症、および低血圧症の病態と診断・治療			第8回講義資料の30分間の予習、第7回講義の30分間の復習		渡辺 卓	
9	大動脈瘤の病態と診断・治療			第9回講義資料の30分間の予習、第8回講義の30分間の復習		渡辺 卓	
10	肺疾患（肺感染症）の病態と診断・治療			第10回講義資料の30分間の予習、第9回講義の30分間の復習		田林 暁一	
11	肺疾患（閉塞性・拘束性障害）の病態と診断・治療			第11回講義資料の30分間の予習、第10回講義の30分間の復習		田林 暁一	
12	肺疾患（肺腫瘍）の病態と診断・治療			第12回講義資料の30分間の予習、第11回講義の30分間の復習		田林 暁一	
13	視覚障害（白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症）の病態と診断・治療			機能の障害（屈折等）部位別疾患（白内障、緑内障、網膜疾患等）について、教科書の該当ページを予習してください。（30分程度）		布施 昇男	
14	鼻・咽頭・喉頭障害（鼻出血、扁桃炎、副鼻腔炎、腫瘍）、耳・聴覚の障害（中耳炎）の病態と診断・治療			鼻腔、耳、聴覚について教科書の該当ページを予習してください。（30分程度）		大島 英敏	
15	皮膚障害（湿疹、アトピー性皮膚炎、蜂窩織炎、腫瘍）病態と診断・治療			第15回講義の30分間の復習		高橋 隼也	
教科書	『系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器』浅野浩一郎他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器』松田直樹他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚』渡辺晋一他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼』大鹿哲郎他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉』小松浩子他著、医学書院						
参考文献	『標準外科学』北島政樹監、医学書院						
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。 授業内課題は適宜フィードバックする。						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb04				
			●							
科目名	病態治療学Ⅲ				単位認定者	湯田 健太郎		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	10 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	病態治療学Ⅰ～Ⅳでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能の障害、内部環境調節機能障害、排泄機能障害、男性生殖器の機能障害の病態と診断・治療など、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>2. 上部消化管・下部消化管の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>3. 肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>4. 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>5. 内分泌系・代謝異常・体液調節の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> <li>6. 泌尿器系・男性生殖器の疾患の病態と診断・治療について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	範囲としては広く、覚える事項も多いですが、現場に出た時に役立つことのできる重要な分野です。よく復習しながら授業に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	口腔疾患、上部消化管疾患（炎症系疾患、潰瘍性疾患）				各回、配布資料を復習してください。（30分程度）				湯田 健太郎	
2	上部消化管疾患（腫瘍）、下部消化管疾患（炎症性疾患、イレウス）								湯田 健太郎	
3	下部消化管疾患（腫瘍）								湯田 健太郎	
4	肝臓疾患（炎症性疾患、脂肪肝、アルコール性肝炎）								湯田 健太郎	
5	肝臓疾患（肝硬変、腫瘍）								湯田 健太郎	
6	胆道系疾患（炎症性疾患、腫瘍、胆石症）								湯田 健太郎	
7	膵臓疾患（炎症性疾患、腫瘍）								湯田 健太郎	
8	腹壁・腹膜・横隔膜の疾患（腹膜炎、横隔膜ヘルニア、吃逆）								湯田 健太郎	
9	内分泌系疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎、腫瘍）								田子 竜也	
10	内分泌系疾患（副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、腫瘍）								田子 竜也	
11	代謝異常の疾患（糖尿病）								田子 竜也	
12	体液調節の疾患（水・電解質の異常、酸塩基平衡の異常）								田子 竜也	
13	泌尿器系疾患（腫瘍、腎・尿路結石、過活動膀胱）								田子 竜也	
14	泌尿器系疾患（腎不全）								田子 竜也	
15	男性生殖器系疾患（前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌）								田子 竜也	
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器』南川雅子他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝』吉岡成人他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器』大東貴志他著、医学書院									
参考文献	『病気がみえる Vol.1 消化器』武藤学他監、メディックメディア 『病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』森野勝太郎他監、メディックメディア 『病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器』池森（上條）敦子他監、メディックメディア									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb06				
			●							
科目名	看護薬理学				単位認定者	柳澤 輝行		試験(筆記)	85 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	5 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	疾病に対する薬物療法、主要な薬物の作用機序とその管理等の知識を学び、薬物の生体内動態、有効性、安全性等、薬理学的知識とその活用を学修する。また、薬の種類及び効果、副作用、与薬方法、管理方法について学び、看護に必要な薬物療法の基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病に対する薬物療法について看護学生らしく説明できる。</li> <li>2. 主な薬物の作用機序・治療機序と副作用について説明できる。</li> <li>3. 薬物の管理について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	教科書の各ステージ (St.) を必ず読んで受講してください。教科書とプリントとを有機的に必ず復習してください。作用・治療機序、薬物療法に対するセンスは、解剖生理学で学んだ生体の階層性(生体分子、細胞小器官、細胞、組織、器官、器管系、個体)を理解していないと身に付きません。薬理学に親しみをもち、薬が得意な看護師になるように期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	作用機序、治療機序、受容体、情報伝達系 (St. 01~03)					<p>【事前】授業計画に合わせて教科書(特に図表)を読んで講義に臨んでください。(概ね30分以上)</p> <p>【事後】講義プリントを教科書やノートとともに活用し、練習問題を解いて、内容の理解を深めてください。時に解剖生理学の教科書も参照してください。(概ね60分以上)</p>				
2	薬物動態、剤形、薬物療法 (St. 04~07)									
3	末梢神経系に作用する薬 I (St. 08~11)									
4	末梢神経系に作用する薬II、中枢神経系概要 (St. 12~15)									
5	中枢神経系に作用する薬 I (St. 16~19)									
6	中枢神経系に作用する薬II (St. 21~25)									
7	循環器系に作用する薬 I (St. 26~28)									
8	循環器系に作用する薬II (St. 29~32)									
9	体液・血液系に作用する薬 (St. 33~35)									
10	炎症・免疫系に作用する薬 (St. 19, 20, 37, 38, 52, 53)									
11	呼吸器・消化器に作用する薬 (St. 36, 39~41)									
12	代謝疾患治療薬 (St. 42~46)									
13	内分泌疾患治療薬 (St. 47~51)									
14	その他の器官系に作用する薬 I (St. 54~60)									
15	その他の器官系に作用する薬II (St. 61~64)									
教科書	『休み時間のワークブック薬理学』柳澤輝行、小橋史著、講談社									
参考文献	『イラストレイテッド薬理学』柳澤輝行他監、丸善出版 『カッティング薬理学エッセンシャル』柳澤輝行他監、丸善出版。									
備考	東北大学機関リポジトリ (TOUR) に種々のPDFファイルがあります。ダウンロード自由です。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa01				
	●		●							
科目名	看護学概論				単位認定者	木下 美佐子		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	看護専門職の基盤となる、看護に関する基本的概念、主要な看護理論と歴史の変遷、看護の対象である人間と健康、生活・環境、看護活動の場やその仕組み、看護に関連する法規などを学ぶ。さらに、現代の保健・医療・福祉のシステムを学修する。									
到達目標	1. 看護の定義や概念、看護に関連する法規について説明できる。 2. 看護の対象である人間の成長発達、健康や生活・環境と看護の関連性について説明できる。 3. 看護の歴史の変遷と看護実践における主要な理論について説明できる。 4. 保健・医療・福祉における看護の特徴と役割について説明できる。									
学修者への期待等	看護学概論は看護学の導入として専門領域を学ぶ上での土台となる科目です。ポートフォリオや授業内での課題を作成し、主体的学習態度を身につけ、看護の基盤となる思考が深まることを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス：看護を学ぶことについて				ポートフォリオ作成に向けた説明をする。看護に対する今の考えをまとめて、授業に参加すること。（概ね1時間）					
2	看護の誕生と発展				教科書①P43～P46, P48～P51を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（概ね1時間）					
3	日本における看護の変遷				教科書①P46～P48, P51～P54で復習し、課題・ポートフォリオ作成。（概ね1時間）					
4	看護の対象理解と倫理				教科書①P70～P94を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（概ね1時間）					
5	ライフサイクルと健康				教科書①P96～P124を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（概ね1時間）					
6	看護理論の理解(1)：ナイチンゲール				看護実践事例から実践と理論の関係についてグループワークに参加できるよう、教科書①、③の該当する理論家について予習しておくこと。授業での課題や学びを復習し、ポートフォリオを作成する。（概ね1時間）					
7	看護理論の理解(2)：ヘンダーソン									
8	看護理論の理解(3)：ペプロウ									
9	看護理論の理解(4)：オレム									
10	看護理論の理解(5)：トラベルビー									
11	看護ケアの基本的役割				教科書①P184～P204を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（概ね1時間）					
12	看護に関連する法規				教科書①P206～P234を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（概ね1時間）					
13	専門職としての看護と教育				教科書①P20～P43, P55～p65, P322～324を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（概ね1時間）					
14	保健・医療・福祉のシステムと看護				教科書①P236～P274を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（概ね1時間）					
15	国際看護や災害看護とこれからの看護				教科書①P276～P324を復習し、課題・ポートフォリオ作成。（概ね1時間）					
教科書	①『ナースング・グラフィカ 基礎看護学①：看護学概論』志自岐康子他編集、MCメディカ出版 ②『看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2023』日本看護協会編、日本看護協会出版会 ③『新訂版 実践に活かす看護理論19』城ヶ端初子編著、サイオ出版									
参考文献	『看護覚え書—看護であること看護でないこと』ナイチンゲール著、現代社 『看護の基本となるもの』V.ヘンダーソン著、日本看護協会出版会									
備考	第6～10回はグループワークを行う。 科目ポートフォリオを作成し、筆記試験終了時に提出を求めます。 授業内課題は、ポートフォリオ20%、課題30%で評価し、適宜フィードバックします。 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須です。									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、学生が看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa02				
	●		●							
科目名	看護倫理				単位認定者	木下 美佐子		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	看護倫理は、質の高い看護を提供するための指針であり、患者を中心とした、看護における理想的な考え方である。本科目では、看護実践の場で必要な倫理的判断の基盤となる倫理原則や、看護倫理に関する重要な用語等を学ぶ。また、医療現場で生ずる倫理的諸問題についての知識とその解決方法を、具体的事例の検討を通して学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理とは何か、価値とはなにかについて説明できる。</li> <li>2. 倫理原則の意義および問題点について説明できる。</li> <li>3. 看護倫理に関係する用語について理解する。</li> <li>4. 看護における倫理の重要性について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	看護倫理は、看護師のアイデンティティを確認する拠り所となるものです。多様化する社会の中にある倫理的な問題に関心を向け、基礎的な知識が身につくための自発的な学修態度を期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	倫理の基礎：倫理とは、価値とは何か				教科書①P2～P16について復習、課題作成すること。（概ね1時間）					
2	倫理原則の意義と問題点とケアの倫理				教科書①P35～P47について復習、課題作成すること。（概ね1時間）					
3	看護倫理に関係する用語：尊厳、権利、アドボカシー、インフォームド・コンセント、プライバシーと守秘義務等				教科書①P49～P127について復習、課題作成すること。（概ね1時間）					
4	倫理的意思決定のステップとさまざまな視点による事例検討				教科書①P135～P142について復習、課題作成すること。（概ね1時間）					
5	さまざまな看護活動と倫理①：人生の最後を生きる人々への看護と倫理				教科書①P145～P153について復習、課題作成すること。（概ね1時間）					
6	さまざまな看護活動と倫理②：社会的配慮者（認知症・難病・障害者等）への看護と倫理				教科書①P199～P220について復習、課題作成すること。（概ね1時間）					
7	さまざまな看護活動と倫理③：小児看護と倫理、地域看護と倫理				教科書①P155～P167について復習、課題作成すること。（概ね1時間）					
8	看護活動と倫理：看護師の倫理綱領、看護研究における倫理				教科書①P223～P247について復習、課題作成すること。（概ね1時間）					
教科書	①『看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ』小西恵美子編集、南江堂 ②『看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2023』日本看護協会編、日本看護協会出版会									
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①：看護学概論』志自岐康子他著、MCメディカ出版									
備考	第5回～7回の授業はディスカッションを行います。 授業内課題は授業時に指示する課題で評価し、講義の復習として毎回提出を求め、フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、学生が看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa03				
			●	●	●					
科目名	看護過程論				単位 認定者	木下 美佐子		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	適切な看護実践のためには、看護を受ける対象のニーズや強みについて、系統的に収集した情報を批判的思考を用いて理解し、実践につなげていくことが重要である。本科目では、基本的欲求に基づくアセスメントから、看護問題を明確にし、看護計画を立案、実施、評価の過程をたどることで、看護実践に用いられる看護過程の意義と方法について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象理解と看護実践の基礎となる看護過程について、V.ヘンダーソンの理論を活用し説明できる。</li> <li>2. 看護過程の展開に必要な系統的思考プロセスを理解する。</li> <li>3. 紙上事例の看護問題を明確にすることができる。</li> <li>4. 看護問題から看護計画を考えることができる。</li> </ol>									
学修者への期待等	看護実践に欠かせない、看護の展開に必要な知識と技術の習得を目指します。看護理論や基礎看護技術と結び付け、看護の対象理解と援助ができる基盤としての思考過程が身につくことを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	看護過程の構成要素、クリティカルシンキング・ポートフォリオの使用について				教科書①P18～P35について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
2	V.ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」と看護過程				教科書①P36～P67について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
3	アセスメント（情報収集、情報の分類、整理）				教科書①P70～P83について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
4	アセスメント（情報の分析、解釈）				教科書①P84～P103について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
5	看護上の問題点（看護問題の明確化・全体像と関連図）				教科書①P112～P115について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
6	看護上の問題点（看護問題の明確化・看護診断）				教科書①P116～P129について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
7	事例展開（情報収集～看護上の問題点まで）				グループワークで事例を用いた看護過程展開の内容について、個別に整理する課題に取り組む（概ね1時間）			木下 美佐子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
8	看護計画（優先順位・目標の設定）				教科書①P130～P137について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
9	看護計画（具体的援助方法）				教科書①P138～P149について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
10	事例展開（目標の設定・看護計画の立案）				グループワークで事例を用いた看護過程展開の内容について、個別に整理する課題に取り組む（概ね1時間）			木下 美佐子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
11	看護介入の実施、評価				教科書①P150～P166について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
12	看護過程と看護記録（SOAP）				教科書②P98～P102について復習、課題作成すること。（概ね1時間）			木下 美佐子		
13	事例展開（アセスメント）				事例展開に必要な事前学修をすること。（概ね1時間）			木下 美佐子 二口 尚美		
14	事例展開（看護計画の立案）				事例展開に必要な事前学修をすること。（概ね1時間）			竹田 理恵 佐藤 由記子		
15	看護過程のまとめ				事例展開に必要な事前学修をすること。（概ね1時間）			佐藤 清湖 佐々木 重徳		
教科書	①『看護がみえる4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、MCメディカ出版									
参考文献	『看護の基本となるもの』ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます他訳、日本看護協会出版会									
備考	第7、10、13～15回の授業は事例を用いたグループワークを行う。 科目ポートフォリオを作成し筆記試験終了時に提出。授業内課題は復習として行い提出を求め、フィードバックする。 授業内課題は、ポートフォリオ10%、課題30%で評価する。 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa04				
学修成果			●							
科目名	基礎看護技術 I				単位認定者	竹田 理恵 二口 尚美		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護実践に必要な共通の看護技術の修得を目指す。具体的には、コミュニケーション、感染防止、安全確保、学習支援などを学び、科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術に共通する考え方について説明できる。</li> <li>2. 看護における関係形成・対人技法の基本を理解して、良好なコミュニケーションを図る方法を説明できる。</li> <li>3. 感染予防のための基本について理解し、演習を通して正しい方法で実施できる。</li> <li>4. 医療における安全確保の技術を理解し、説明できる。</li> <li>5. 看護における学習支援について説明できる。</li> <li>6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み振り返りができる。</li> </ol>									
学修者への期待等	教科書の該当箇所を必ず予習すること。「看護技術とは何か」「看護とは何か」「なぜそうするのか/なぜそうしてはいけないのか(根拠)」など常に考えながら、講義・演習に臨んで欲しい。特に演習では、学内の「医療施設」に入る気持ちで臨んでほしい。さらに、確実に理解・習得して次に学ぶ技術と統合して実践できるよう心掛けてほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	看護技術を学ぶ(看護技術とは何か、看護技術の根拠をなすものとは何か)				教科書① 序章を読む(30分)			木下 美佐子		
2	看護におけるコミュニケーション				教科書① 第1部、教科書② 第1部2章3を読む(30分)			竹田 理恵		
3	感染防止の技術Ⅰ(基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策、感染管理)				教科書② 第1部4章を読む(30分)			二口 尚美		
4	感染防止の技術の基礎(スタンダードプリコーションの実際)				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
5	感染防止の技術Ⅱ(洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い)				教科書② 第1部4章を読む(30分)			二口 尚美		
6	感染防止の技術の実際(無菌操作・感染性廃棄物の取り扱いの実際)				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
7	安全確保の技術(医療事故防止、針刺し防止策)				教科書② 第1部3章を読む(30分)			竹田 理恵		
8	看護における学習支援				教科書① 第1部1章5と6を読む(30分)			竹田 理恵		
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版									
参考文献	必要時授業内で提示する									
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>*第4回、6回の授業は実技を行う。</li> <li>*非常勤助手：高栖希美子、菊池真紀子</li> <li>*演習はA・Bの2クラス編成で行う。</li> <li>*授業内課題は、技術チェック、レポート、学習カード、確認テスト等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。</li> <li>*この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須である。</li> </ul>									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa05				
			●							
科目名	基礎看護技術Ⅱ				単位認定者	竹田 理恵		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	試験(実技)	20 %
							授業時間数		60 時間	授業内課題
				授業形態	演習	授業回数			30 回	
授業の概要	看護実践の基礎となる基本的な日常生活援助技術の修得を目指す。具体的には、生活環境、活動と休息、清潔と衣生活、食事と排泄を整える知識と技術を学ぶ。また、リスクマネジメント・安全確保等の知識と技術についても併せて学修し、科学的根拠に基づく看護の基礎的知識と実践能力を演習を通して身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境調整に関する看護上の意義を理解し、環境調整に関連した技術を修得する。</li> <li>2. 活動と休息に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。</li> <li>3. 清潔と衣生活に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。</li> <li>4. 食事に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。</li> <li>5. 排泄に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。</li> <li>6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。</li> </ol>									
学修者への期待等	身だしなみを整える、時間やルールを守る、事前・事後学修を主体的に行う、グループメンバーと協力するなど、授業をとらして看護学生として必要な態度を身につけることを期待しています。演習には指定のユニフォーム、シューズ、ナースウォッチ、クリップボード、メモ帳、ヘアゴム(必要時)等が必要です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	環境調整：援助の基礎知識				教科書② 第1部1章・2章を読む(1時間)			佐藤 由記子		
2	環境調整：援助の方法 (ベッドメイキング ベッド周囲の環境整備)							佐藤 由記子		
3	環境調整の実際「ベッドメイキング① デモンストレーション・実習室ガイダンス」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
4	環境調整の実際「ベッドメイキング② ベッドメイキングの実施方法」：グループワーク									
5	環境調整の実際「ベッドメイキング③ リネン類の交換、シーツ交換」：グループワーク									
6	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備① デモンストレーション、基本的な方法」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)					
7	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備② 事例検討」：グループワーク									
8	活動・休息：基本的活動の援助				教科書② 第2部7章を読む(1時間)			佐藤 清湖		
9	活動・休息：睡眠・休息の援助				教科書② 第2部8章を読む(1時間)			佐藤 清湖		
10	活動・休息の援助の実際「体位変換・歩行介助」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳		
11	活動・休息の援助の実際「移乗・移送」：グループワーク									
12	清潔・衣生活：援助の基礎知識				教科書② 第2部9章を読む(1時間)			竹田 理恵		
13	清潔・衣生活：援助の方法 (手浴 足浴とフットケア 陰部洗浄)							竹田 理恵		
14	清潔・衣生活の援助の実際「足浴とフットケア」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			竹田 理恵 佐藤 由記子 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
15	清潔・衣生活：病床での衣生活の援助				教科書② 第2部9章を読む(30分)			佐藤 清湖		

回	授業計画	準備学修	担当
16	清潔・衣生活の援助の実際「病衣・寝衣の交換」： グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳
17	清潔・衣生活：援助の方法（口腔ケア）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
18	清潔・衣生活：援助の方法 （入浴 シャワー浴 全身清拭）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
19	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭① デモン ストレーション・使用物品の使い方」： グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳
20	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭② 全身清 拭の実施方法」： グループワーク	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳
21	清潔・衣生活：援助の方法（洗髪 整容）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	竹田 理恵
22	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪① デモン ストレーション・使用物品の使い方」： グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳
23	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪② 洗髪の実 施方法」： グループワーク	教科書② 第2部5章を読む（1時間）	佐藤 由記子
24	食事：援助の基礎知識 食事摂取の介助	教科書② 第2部5章を読む（1時間）	佐藤 由記子
25	食事：摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の 援助	教科書② 第2部5章を読む（1時間）	佐藤 由記子
26	食事の援助の実際「食事摂取の介助」： グループ ワーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳
27	排泄：自然排尿および自然排便の基礎知識	教科書② 第2部6章を読む（1時間）	竹田 理恵
28	排泄：自然排尿および自然排便の介助の 方法（おむ つによる排泄援助）	教科書② 第2部6章を読む（1時間）	竹田 理恵
29	排泄の援助の実際「床上排泄援助」： グループ ワーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳
30	排泄の援助の実際「おむつによる排泄 援助」： グループ ワーク	教科書② 第2部6章を読む（1時間）	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、菊池眞紀子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。 *授業内課題は、レポート、学習カード、確認テスト等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須である。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa06				
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位 認定者	佐々木 重徳		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	試験（技術）	20 %
					授業時間数	30 時間	授業回数		15 回	授業内課題
				授業形態	演習					
授業の概要	看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の修得を目指す。具体的には、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の知識と技術を学ぶ。ヘルスアセスメントの意義、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントといった症状・生体機能管理技術を学ぶことにより、科学的根拠に基づく看護の基礎的技術を身につける。									
到達目標	1.ヘルスアセスメントに必要なバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの技術を理解し、実施できる。 2.看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	基本的なフィジカルイグザミネーションを正確・安全・安楽に実施できる基本的技術を修得してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	ヘルスアセスメント				教科書①「第2部」を読む（30分）			佐々木 重徳		
2	フィジカルアセスメント バイタルサインの観察とアセスメント				教科書①「第3部」を読む（30分）			佐々木 重徳		
3	バイタルサイン測定① 血圧計、体温計、聴診器の使い方：実技、グループワーク				教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）			佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖		
4	バイタルサイン測定② 血圧測定：実技、グループワーク				教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
5	バイタルサイン測定③ 体温、脈拍、呼吸の測定：実技、グループワーク				教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
6	バイタルサイン測定④ 正確な測定の方法と一連の技術実施、アセスメント：実技、グループワーク				教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
7	計測の実際：グループワーク				教科書②「身体計測」を読む（30分）					
8	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“腹部、感覚器”				教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）			佐藤 清湖		
9	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“筋・骨格系、神経系”				教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）			佐藤 清湖		
10	フィジカルアセスメント① 腹部、筋・骨格系、感覚器、神経系：実技、グループワーク				教科書②「頭頸部のアセスメント」、「腹部のアセスメント」、「乳房と腋窩のアセスメント」、「直腸・肛門・生殖器のアセスメント」、「脳・神経系のアセスメント」、「筋・骨格系のアセスメント」、を読む（60分）、動画視聴（10分）			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳		
11	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“呼吸器”				教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）			佐々木 重徳		
12	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“循環器”				教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）			佐々木 重徳		
13	フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系：実技、グループワーク				教科書②「呼吸器系のアセスメント」、「循環器系アセスメント」を読む（30分）、動画視聴（10分）			佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖		
14	心理・社会状態のアセスメント				教科書①「第2部」、参考書、「フィジカルアセスメント総論」を読む（30分）			佐藤 清湖		
15	ヘルスアセスメントの実際：グループワーク				第1回から第14回までの教科書①②、参考書および動画視聴内容を復習する（30分）			佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖		
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、MCメディカ出版 ②『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
参考文献	『フィジカルアセスメントと画像の図鑑』後藤順一他編、南江堂									
備考	*非常勤助手：高栖希美子、菊池真紀子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。 *基礎看護学実習室のほか、シミュレーションセンターを活用する。 *授業内課題はレポート、確認テストで評価し、適宜フィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa07				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅳ				単位認定者	佐藤 由記子 佐藤 清湖		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態		演習		授業回数	60 時間
							30 回			
授業の概要	診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術の修得を目指す。具体的には排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術(採血・検体検査)を学ぶ。また、状況設定場面に応じた診療援助技術についての演習を通して実践能力を身につける。									
到達目標	1. 診療の補助技術として排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術を理解し、実施できる。 2. 看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が不可欠です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学修・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。効果的な演習とするために、主体的に行動し、グループメンバーと協力しながら取り組みましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	排泄援助技術 「自然排尿ができない場合・医療上の処置(一時的導尿・持続的導尿)」				教科書② 第2部6章を読む(1時間)			竹田 理恵		
2	排泄援助技術 「自然排便ができない場合・医療上の処置(浣腸・摘便・ストーマケア)」							竹田 理恵		
3	排泄援助技術の実際 「持続的導尿(処置)」:グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			竹田 理恵 二口 尚美		
4	排泄援助技術の実際 「持続的導尿(患者の観察)」:グループワーク							佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
5	呼吸・循環を整える技術 「体温管理の技術、巻法、末梢循環促進ケア」				教科書② 第3部11章を読む(30分)			佐藤 清湖		
6	呼吸・循環を整える技術 「酸素療法、排痰ケア」				教科書② 第3部10章を読む(30分)			佐藤 清湖		
7	呼吸・循環を整える技術の実際 「酸素療法、口腔・鼻腔内吸引」:グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳		
8	創傷管理技術 「創傷管理、創傷処置」							教科書② 第4部12章を読む(1時間)		
9	創傷管理技術 「褥瘡予防」				佐藤 由記子					
10	創傷管理技術の実際 「創傷の観察と創処置」:グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			佐藤 由記子 二口 尚美		
11	創傷管理技術の実際 「体圧分散、体位変換、包帯法」:グループワーク							竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
12	与薬の技術 「与薬の基礎知識、経口与薬」				教科書② 第4部13章を読む(1時間)			佐藤 由記子		
13	与薬の技術 「吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬」							佐藤 由記子		
14	与薬の技術 「注射の基礎知識/針刺し防止策」				教科書② 第4部13章を読む(30分)			佐藤 清湖		

回	授業計画	準備学修	担当
15	注射の準備の実際 「注射針と注射筒の取り扱い」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分)	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵
16	注射の準備の実際 「薬液の取り扱い」：グループワーク	さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)	佐藤 由記子 佐々木 重徳
17	与薬の技術 「注射の実施法(皮下注射・皮内注射・筋肉内注射)」	教科書② 第4部13章を読む(30分)	佐藤 清湖
18	筋肉内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分)	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵
19	筋肉内注射の実際(患者の観察)：グループワーク	さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)	佐藤 由記子 佐々木 重徳
20	与薬の技術 「静脈内注射(ワンショット、点滴静脈内注射)」	教科書② 第4部13章を読む(30分)	佐藤 由記子
21	点滴静脈内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分)	佐藤 由記子 二口 尚美 竹田 理恵
22	点滴静脈内注射の実際(患者の観察)：グループワーク	さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)	佐藤 清湖 佐々木 重徳
23	与薬の技術 「中心静脈カテーテル留置の管理、輸血管理」	教科書② 第4部13章を読む(30分)	佐々木 重徳
24	症状・生体機能管理技術 「血液検査(静脈血採血、動脈血採血、血糖測定)」	教科書② 第4部14章を読む(30分)	佐々木 重徳
25	静脈血採血の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分)	佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵
26	静脈血採血の実際(検体の取り扱い、患者の観察)：グループワーク	さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)	佐藤 由記子 佐藤 清湖
27	症状・生体機能管理技術 「検体検査(尿・便・喀痰検査)、生体情報のモニタリング(心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター)」	教科書② 第4部14章を読む(1時間)	佐々木 重徳
28	診察・検査・処置における技術 「診察の介助、検査・処置の介助」		佐々木 重徳
29	状況設定場面に応じた診療援助技術(排泄、酸素療法、与薬、検査等)の実際1：グループワーク、ディスカッション	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分)	佐藤 由記子 佐藤 清湖 二口 尚美
30	状況設定場面に応じた診療援助技術(排泄、酸素療法、与薬、検査等)の実際2：プレゼンテーション、ディスカッション	さらに、事後課題に取り組み提出する(1時間)	竹田 理恵 佐々木 重徳
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、菊池真紀子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。 *授業内課題は、技術チェック、レポート、学習カード、確認テスト、等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMc01				
	●		●							
科目名	成人看護学概論				単位認定者	佐藤 富美子		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護学における成人期は、心身が成熟した時から老いが始まるまでの期間であり、人生の中で最も長い時期として過ごすことになる。本科目では、成人看護学の理念、成人期の発達段階の特徴、成人の生活を理解し、成人における健康の保持増進や疾病の予防、生活習慣・ストレスに関連する健康課題について学修し、成人看護学に関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>成人看護学の理念及び成人期の発達段階の特徴、成人の生活と健康について説明できる。</li> <li>成人期における健康の保持増進や疾病の予防、生活習慣・ストレスに関連する健康課題について説明できる。</li> <li>成人看護学に活用できる理論について説明できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	今後、成人看護学を学ぶ上での基礎となる科目です。毎回の授業内容をあらかじめ定めているので、授業に臨む前に必ず教科書を読んでおくこと。グループワーク前の課題にはしっかり取り組み、自分の考えを積極的に発言すること。授業後には、授業であげたトピックに関する文献を検索、読み込んで理解を深めること。									
回					準備学修					
1	成人看護学の理念				教科書第I章で予習すること(概ね1時間)					
2	成人期にある人の成長・発達① 発達における文化と統合 成人期の特徴				「成人期の発達」に関する課題をレポートし、準備すること(概ね1時間30分)					
3	成人期にある人の成長・発達② 青年期の身体的・心理社会的特徴				「成人期にある人の成長・発達」の青年期の特徴に関する課題をレポートし、準備すること(概ね1時間)					
4	成人期にある人の成長・発達③ 壮年期・向老期の身体的・心理社会的特徴				「成人期にある人の成長・発達」の壮年期の特徴に関する課題をレポートし、準備すること(概ね1時間)					
5	成人の生活と健康① 生活と健康 成人各期の健康課題と健康な生活の目標				教科書第2章、国民衛生の動向で予習すること(概ね30分)					
6	成人の生活と健康② 生活習慣病の動向と対策				教科書2章、国民衛生の動向で予習すること(概ね30分)					
7	成人保健の動向と健康問題の予防および保健対策				教科書第3章、国民衛生の動向で予習すること(概ね30分)					
8	成人看護学に活用できる理論 ストレス理論 危機理論 健康信念モデル 変化のステージモデルなど				基礎看護学の「看護学概論」で学修した各中範囲理論について、成人看護学でどう活用できるか復習・予習すること(概ね1時間)					
教科書	『成人看護学』黒田裕子編、医学書院、 『国民衛生の動向 2024/2025』厚生労働統計協会著、厚生労働統計協会									
参考文献										
備考	第3、4回はグループワークを行う。 授業内課題はレポートで評価し、適宜フィードバックする。 課題は授業の講義やグループワークに活かすための事前準備であり、質問がある場合は授業前後、授業中のどのタイミングでも直接またはメールで対応する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMi05				
	●	●		●						
科目名	スタートアップセミナー				単位認定者	桑田 恵美子		試験 (レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	初年次教育科目として、大学における学修に必要な基礎の修得を目指す。大学生活における時間管理や学修習慣等を身につけ、学ぶことの目的や目標を明確にする。自ら学修するための文献・資料収集方法、web検索方法、レポートやプレゼンテーション資料作成方法等、大学生としての学びに欠かすことのできないスキルを学修する。また、グループワーク等の演習を通じて、意欲と探究心を高め、協調性や自主性の伸長も目指す。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生活における時間管理や学修習慣等を身につけ、学ぶことの目的や目標を明確にできる。</li> <li>2. 自ら学修するための文献・資料収集方法、web検索方法、レポートやプレゼンテーション、資料作成方法等、大学生としての学びに欠かすことのできないスキルを理解できる。</li> <li>3. グループワークを通じて、意欲と探究心を高め、協調性や自主性を高める態度を養う。</li> <li>4. 自分自身の未来に向けてキャリアを積んでいく態度を養う。</li> </ol>									
学修者への期待等	大学での学びは、高校までの学びと異なり、一定の知識を獲得するだけではなく、あなたの未来に向けて、自ら学び方を学び、新しい知識を吸収し、疑問を持ち、自分の力でその問題を解き明かす。そして、他者からの批判を受け入れ、自分の考え方を磨いていくプロセスです。自分自身の未来に向けてキャリアを積んでいく学び方の基礎を身につけましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	大学で学ぶとは 教育理念・目標 カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー				【事後】授業内の学び（概ね30分）			桑田 恵美子		
2	- スタディ・スキル1 - 教養科目・専門基礎科目・専門科目 カリキュラムツリー				【事後】授業内の学び（概ね30分）			二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
3	- スタディ・スキル2 - PCを使用する大学の講義・遠隔授業				【事後】授業内の学び（概ね30分）					
4	- スタディ・スキル3 - 図書館の利用法、文献・資料収集、Web検索方法				【事後】授業内の学び（概ね30分）					
5	- スチューデント・スキル1 - 学生生活、学生支援体制				【事後】授業内の学び（概ね30分）					
6	- スチューデント・スキル2 - 健康管理				【事後】授業内の学び（概ね30分）					
7	- スチューデント・スキル3 - こころの健康・ストレス対処スキル				【事後】授業内の学び（概ね30分）					真覚 健
8	- スチューデント・スキル4 - 対人関係スキル・伝える・聴く・関わる				【事後】授業内の学び（概ね30分）			真覚 健		
9	- スタディ・スキル4 - 効果的な学習の方法				【事後】授業内の学び（概ね30分）			二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
10	- スタディ・スキル5 - プレゼンテーションスキル				【事後】授業内の学び（概ね30分）					
11	- スタディ・スキル6 - 仲間と学ぶ、チームの一員としての役割 (グループワーク)				【事後】授業内の学び（概ね30分）					
12	- スタディ・スキル7 - ディスカッション・スキル				【事後】授業内の学び（概ね30分）					
13	看護のキャリアとキャリア・デザイン				【事後】授業内の学び（概ね30分）			桑田 恵美子		
14	将来の職業生活・進路選択				【事後】授業内の学び（概ね30分）			桑田 恵美子		
15	目指す看護師像・多職種連携における看護職の役割				【事前】レポート課題 「理想の看護職像と今後のキャリアデザイン」 (概ね5時間) 【事後】授業内の学び（概ね30分）			桑田 恵美子		
教科書	適時、資料を配付する。									
参考文献	『看護学生のためのよくわかる大学での学び』前原澄子他著、金芳堂									
備考	* 授業内課題は、次回授業時フィードバックします。 * レポート課題「理想の看護職像と今後のキャリアデザイン」									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj01				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護学実習 I				単位認定者	木下 美佐子		認知領域 (知識)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	20 %
					授業形態	実習	授業時間数		40 時間	情意領域 (態度)
							授業回数		集中	
授業の概要	病院や地域における看護実践活動を見学し、看護の対象としての人間と看護の場、看護の役割や機能の実際について理解を深める。また、各健康段階にある生活者とコミュニケーションをとり、看護の対象としての人について身体的・心理的・社会的・文化的側面を理解し、看護実践能力の基盤を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康生活を支える活動の場（施設・病院）の環境を知ることができる。</li> <li>利用者・患者の思いに関心に向け、対象理解をすると共に、人間関係構築の重要性がわかる。</li> <li>看護実践活動を見学し、看護がどのように実践されているのかがわかる。</li> <li>看護学生として責任ある態度で行動し、自己の課題がわかる。</li> </ol>									
学修者への期待等	臨地での見学や体験を通して、看護の対象を理解し、看護の魅力や難しさ等を発見して、自身が看護を学ぶ動機を明確にし、学修意欲つながることを期待する。									
授業計画										
<p>I. 実習期間 1週間</p> <p>II. 実習施設 病院 老人福祉センター</p> <p>III. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内 <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を行う。</li> </ol> </li> <li>病院 <ol style="list-style-type: none"> <li>患者1名を受け持ち、患者の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。</li> <li>看護師の行う援助を見学し、看護の役割や機能について学ぶ。</li> <li>毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。</li> </ol> </li> <li>老人福祉センター <ol style="list-style-type: none"> <li>利用者とのコミュニケーションを通して健康を支える活動について理解を深める。</li> <li>活動の場の環境を知ることができる。</li> </ol> </li> <li>実習のまとめ <ol style="list-style-type: none"> <li>実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して看護の対象、役割や機能について理解を深める。</li> </ol> </li> </ol>										
教科書	特に指定しない									
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	担当：木下美佐子、阿部春美、岡崎優子、菅原尚美、二口尚美、竹田理恵、伊藤茉莉子、佐藤由記子、遠藤美穂子、岡崎草代夏、東海林美幸、泉田さとみ、佐藤清湖、佐々木重徳、小倉真紀、遠藤理加、非常勤助手2名 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj02				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護学実習Ⅱ				単位認定者	木下 美佐子		認知領域 (知識)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	20 %
					授業形態	実習	授業時間数		80 時間	情意領域 (態度)
							授業回数		集中	
授業の概要	患者の療養環境を理解し、健康問題を持つ対象理解に向けた情報を収集した上で、日常生活における問題を論理的に捉え援助することを学ぶ。また、対象者のニーズを捉え、情報の持つ意味を考えた看護計画を立案し、適切な看護が実践できるための基礎的な知識・技術・態度を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>受け持ち患者の情報を収集・把握してアセスメントができる。</li> <li>受け持ち患者の看護計画が立案できる。</li> <li>受け持ち患者の看護計画に沿って、援助できる。</li> <li>看護過程の重要性が理解できる。</li> <li>看護学生として責任ある態度で行動できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	学内で学んだ看護学概論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、看護過程および基礎看護学実習Ⅰでの学びを振り返り、患者理解が深まる積極的な姿勢で、実習に臨むことを期待する。									
授業計画										
<p>I. 実習期間 2週間</p> <p>II. 実習施設 病院</p> <p>III. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学内 <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーションで実習の全体を把握する。</li> <li>事前学修、技術の再確認を行う。</li> <li>受け持ち患者の看護過程に関するカンファレンスを行う。</li> <li>実習の振り返りを行う。</li> </ol> </li> <li>病院 <ol style="list-style-type: none"> <li>患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>看護過程の展開を通し、適切な援助方法を学ぶ。</li> <li>毎日のカンファレンスを通し、学修内容の共有と整理・理解を深める。</li> </ol> </li> <li>まとめ <ol style="list-style-type: none"> <li>実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して「看護」についての自分の考えを深める。</li> <li>実習に臨む態度を振り返り、今後の課題を明確にする。</li> </ol> </li> </ol>										
教科書	特に指定しない									
参考文献	『看護がみえる4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	担当：木下美佐子、高橋由美、桑田恵美子、阿部幹佳、菅原尚美、二口尚美、竹田理恵、佐藤由記子、岡崎草代夏、坂村佐知、東海林美幸、佐藤清湖、佐々木重徳、小倉真紀、遠藤理加、非常勤助手4名									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--



## 看護学科

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

## ナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号等を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

各授業科目には、以下の法則にて符号を付しています。

教育課程の体系性を理解し、主体的な学修を行うために、活用してください。

### ①学部学科等区分

学部学科等名称（英語名称）	符号
看護学部看護学科 (Faculty of Nursing, Department of Nursing)	<b>NS</b>

### ②科目区分（大区分）

科目区分名称（英語名称）	符号
教養教育科目（Liberal Arts subjects）	<b>L</b>
専門基礎科目（Foundations of Major subjects）	<b>F</b>
専門科目（Major subjects）	<b>M</b>

### ③科目区分（小区分）

科目区分に上から順にa,b,c…とアルファベット小文字を付し、符号とする。

### ④授業科目

科目区分ごとの授業科目に上から順に01, 02, 03…と数字を付し、符号とする。

#### 【ナンバリング例】

看護学部看護学科「看護学概論」の場合、①NS②M③a④01

→ ナンバリングは「NSMa01」

# ナンバリング一覧

看護学部看護学科 NS

	科目区分	授業科目の名称	ナンバリング
教養科目 L	言語・情報系 a	日本語表現法	NSLa01
		英語Ⅰ	NSLa02
		英語Ⅱ	NSLa03
		英語Ⅲ	NSLa04
		情報処理Ⅰ	NSLa05
		情報処理Ⅱ	NSLa06
		ICT活用技術	NSLa07
	人文科学系 b	哲学	NSLb01
		生命倫理学	NSLb02
		心理学	NSLb03
		教育心理学	NSLb04
		宗教と民族	NSLb05
		人間関係論	NSLb06
	社会科学系 c	法学入門	NSLc01
		日本国憲法	NSLc02
		経済と政策	NSLc03
		教育学概論	NSLc04
		社会学	NSLc05
	自然科学系 d	社会保障論	NSLc06
		物理学	NSLd01
		生物学	NSLd02
		自然環境と災害	NSLd03
		統計学入門	NSLd04
		健康スポーツⅠ	NSLd05
健康スポーツⅡ	NSLd06		
専門基礎科目 F	人体の構造と機能 a	人体構造と機能Ⅰ	NSFa01
		人体構造と機能Ⅱ	NSFa02
		人体構造と機能Ⅲ	NSFa03
		生化学	NSFa04
		微生物学	NSFa05
		栄養学	NSFa06
	疾病の成り立ちと回復の促進 b	病理学	NSFb01
		病態治療学Ⅰ	NSFb02
		病態治療学Ⅱ	NSFb03
		病態治療学Ⅲ	NSFb04
		病態治療学Ⅳ	NSFb05
		看護薬理学	NSFb06
	健康支援と社会保障制度 c	公衆衛生学	NSFc01
		疫学	NSFc02
		保健情報論	NSFc03
		保健医療福祉行政論	NSFc04
		チームアプローチ入門	NSFc05

	科目区分	授業科目の名称	ナンバリング
専門科目 M	基礎看護学 a	看護学概論	NSMa01
		看護倫理	NSMa02
		看護過程論	NSMa03
		基礎看護技術Ⅰ	NSMa04
		基礎看護技術Ⅱ	NSMa05
		基礎看護技術Ⅲ	NSMa06
		基礎看護技術Ⅳ	NSMa07
	地域・在宅看護学 b	地域・在宅看護学概論Ⅰ	NSMb01
		地域・在宅看護学概論Ⅱ	NSMb02
		地域・在宅看護学援助論	NSMb03
		地域・在宅看護学援助方法	NSMb04
		地域包括ケア論	NSMb05
	成人看護学 c	成人看護学概論	NSMc01
		成人看護学援助論	NSMc02
	老年看護学 d	成人看護学援助方法	NSMc03
		老年看護学概論	NSMd01
		老年看護学援助論	NSMd02
	小児看護学 e	老年看護学援助方法	NSMd03
		小児看護学概論	NSMe01
		小児看護学援助論	NSMe02
	母性看護学 f	小児看護学援助方法	NSMe03
		母性看護学概論	NSMf01
		母性看護学援助論	NSMf02
	精神看護学 g	母性看護学援助方法	NSMf03
		精神看護学概論	NSMg01
		精神看護学援助論	NSMg02
	看護の基盤と応用 h	精神看護学援助方法	NSMg03
		看護過程展開方法	NSMh01
		家族支援論	NSMh02
		救急救命学	NSMh03
		クリティカルケア看護学	NSMh04
		周術期看護論	NSMh05
		リハビリテーション論	NSMh06
	緩和ケア論	NSMh07	
	看護の統合と実践 i	医療安全管理論	NSMi01
		災害看護論	NSMi02
		看護管理論	NSMi03
		国際看護論	NSMi04
		スタートアップセミナー	NSMi05
		キャリアデザインセミナー	NSMi06
		看護研究Ⅰ	NSMi07
		看護研究Ⅱ	NSMi08
看護学総合講義		NSMi09	
臨地実習 j	基礎看護学実習Ⅰ	NSMj01	
	基礎看護学実習Ⅱ	NSMj02	
	地域・在宅看護学実習Ⅰ	NSMj03	
	地域・在宅看護学実習Ⅱ	NSMj04	
	領域横断看護実習	NSMj05	
	成人看護学実習	NSMj06	
	老年看護学実習	NSMj07	
	小児看護学実習	NSMj08	
	母性看護学実習	NSMj09	
	精神看護学実習	NSMj10	
	統合実習	NSMj11	
公衆衛生看護学 k	公衆衛生看護学概論	NSMk01	
	公衆衛生看護学援助論Ⅰ	NSMk02	
	公衆衛生看護学援助論Ⅱ	NSMk03	
	公衆衛生看護学援助方法	NSMk04	
	公衆衛生看護管理論	NSMk05	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	NSMk06	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	NSMk07	

## 看護学科 教員一覧

	氏名	E-mail
1	あべ はるみ 阿部 春美	h_abe@seyogakuin.ac.jp
2	あべ みきか 阿部 幹佳	mk_abe@seyogakuin.ac.jp
3	いずみだ さとみ 泉田 さとみ	s_izumida@seyogakuin.ac.jp
4	いとう まりこ 伊藤 茉莉子	ma_itou@seyogakuin.ac.jp
5	いわま まきのり 岩間 正典	m_iwama@seyogakuin.ac.jp
6	えんどう みほこ 遠藤 美穂子	m_endou@seyogakuin.ac.jp
7	おかざき ちか 岡崎 章代夏	s_okazaki@seyogakuin.ac.jp
8	おかざき ゆうこ 岡崎 優子	y_okazaki@seyogakuin.ac.jp
9	おぐら まき 小倉 真紀	m_ogura@seyogakuin.ac.jp
10	かとう まりこ 加藤 真理子	m_kato@seyogakuin.ac.jp
11	きのした みさ子 木下 美佐子	m_kinoshita@seyogakuin.ac.jp
12	くわた えみこ 桑田 恵美子	e_kuwata@seyogakuin.ac.jp
13	こばやし あつこ 小林 淳子	a_kobayashi@seyogakuin.ac.jp
14	さいとう みか 齋藤 美華	m_saito@seyogakuin.ac.jp
15	さかむら さち 坂村 佐知	s_sakamura@seyogakuin.ac.jp
16	ささき しげのり 佐々木 重徳	s_sasaki@seyogakuin.ac.jp
17	さとう きよこ 佐藤 清湖	k_satou@seyogakuin.ac.jp
18	さとう ゆきこ 佐藤 幸子	yu_sato@seyogakuin.ac.jp
19	さとう ゆきこ 佐藤 由記子	yk_satou@seyogakuin.ac.jp
20	さとう りえ 佐藤 理恵	r_satou@seyogakuin.ac.jp
21	すえなが くに 末永 カツ子	k_suenaga@seyogakuin.ac.jp
22	すがわら なおみ 菅原 尚美	n_sugawara@seyogakuin.ac.jp
23	たかはし ゆみ 高橋 由美	y_takahashi@seyogakuin.ac.jp
24	たけだ みなこ 武田 美奈子	m_takeda@seyogakuin.ac.jp
25	たけだ りえ 竹田 理恵	r_takeda@seyogakuin.ac.jp
26	たなべ けいこ 田辺 圭子	k_tanabe@seyogakuin.ac.jp
27	たばやし こういち 田林 暁一	k_tabayashi@seyogakuin.ac.jp
28	てづか ゆきこ 手塚 有希子	y_teduka@seyogakuin.ac.jp
29	とうかいりん みゆき 東海林 美幸	m_toukairin@seyogakuin.ac.jp
30	ふたくち ひさみ 二口 尚美	h_futakuchi@seyogakuin.ac.jp
31	まさめ けん 真覚 健	k_masame@seyogakuin.ac.jp
32	またに じゅんこ 真溪 淳子	j_matani@seyogakuin.ac.jp

実務経験を有する教員一覧

【看護学部 看護学科】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
看護学概論	1	2	木下 美佐子	看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、学生が看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。
看護倫理	1	1	木下 美佐子	看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、学生が看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。
地域・在宅看護学概論Ⅰ	2	1	小林 淳子	地域看護活動の実務経験を活かし、学生が地域療養を支える看護について理解を深められるような授業を展開する。
地域・在宅看護学概論Ⅱ	2	1	高橋 由美	看護師としての実務経験を活かし、学生が地域療養を支える看護について理解を深められるような授業を展開する。
地域・在宅看護学援助論	3	2	高橋 由美 東海林 美幸	看護師としての実務経験を活かし、学生が地域療養を支える看護について理解を深められるような授業を展開する。
地域・在宅看護学援助方法	3	1	高橋 由美 東海林 美幸	看護師としての実務経験を活かし、学生が地域療養を支える看護について理解を深められるような授業を展開する。
小児看護学概論	2	1	佐藤 幸子	看護師としての実務経験を活かし、学生が小児看護に関する看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。
小児看護学援助方法	2	1	佐藤 幸子 武田 美奈子 岡崎 草代夏	看護師としての実務経験を活かし、学生が小児看護に関する看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。
精神看護学援助方法	2	1	阿部 幹佳 加藤 真理子	看護師としての実務経験を活かし、学生が精神看護に関する看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。
医療安全管理論	4	1	木下 美佐子	看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、学生が看護実践を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。
看護管理論	4	1	阿部 春美	看護師、認定看護管理者としての実務経験を活かし、学生が看護管理を具体的にイメージして考察を深められるような授業を展開する。
	合計	13	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

## 2024（令和6）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

### 成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。